

2020 Research Report

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査
～特別支援学校生徒の保護者アンケート結果による一考察～

はじめに

北国に住む私たちは、厳しい冬を耐え忍ぶ心が、春の訪れの喜びを倍増させることを、身をもって知っています。ところが、度を越えた今冬の記録的大雪に心を挫かれたうえ、新型コロナウイルスとの闘いでは、変異株への対応という新たな課題まで与えられ、思わぬ長期戦を強いられています。ただ耐え忍ぶのではない新たな姿勢や態度を求めて、人類の知恵を結集する必要が生まれています。

「騎虎の勢い」という言葉があります。虎に乗った者は途中で降りると喰われてしまうので虎の背中にしがみつき走らせるほかないように、やりかけた物事が行きがかり上止められなくなることをたとえた故事成語ですが、現代社会の在り様に似ていると感じたことがありました。いま、虎の進路をコロナという大蛇が阻み、人類は虎の背中で震えながら、大小諸々の社会的課題に直面しています。十分に見直す余裕の無かった物事の原点を見定め、課題解決に生かし、社会という乗物の骨格を強くしなやかなものに変える必要が生じています。

昨年度来、当センターは、県生涯学習及び社会教育推進の中核機関たる自負のもと、「シンクタンク」「研修・人材育成」「学習活動推進・情報発信」の3機能を柱とし、業務を推進しています。根幹を成す「シンクタンク機能」においては、「障害者の生涯学習」をテーマに調査研究を進め、昨年度、全県の特別支援学校高等部の在校生及び卒業生、そして保護者の皆さんの協力を得てアンケートを実施し、得られたデータを分析し、「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（概要版）としてお知らせしました。二年目に当たる今年度は、より細やかなデータ分析を行うとともに、県内全ての特別支援学校と就業・生活支援センターを対象にヒアリング調査を実施しました。その結果などもこの報告書に載せ、データの向こうにある実状や課題、当事者や担当者の願いなども届けられるようにまとめました。

「障害者の生涯学習」を阻害し促進するものは何か？それを見極めるところに、「共生社会」の扉を大きく開くヒントがあると考えます。小さなとげが取れただけで嘘のように痛みが引き、他人のさり気ないひと言に背中を押されることもあるように、当事者や支援者など様々な立場の人の心の中で、気づきや意識の変化が起こったなら、よい方向へ大きく針が振れる可能性も出てくるでしょう。この報告書を、皆様の日ごろ感じていることや、はっと思いついたことを裏付け生かす根拠とし、実践の踏み台として活用してほしいと願っています。

手前味噌な話となりますが、スマートカレッジ講座の受講者の「センターでもスポーツ交流できるとうれい」という声を励みに、令和元年の夏、所内の配置を変えて「障害者スポーツスペース」を設けたところから、手探りで始めた「障害者の生涯学習」研究が血の通うものとなりました。コロナ対応で足踏みを余儀なくされたものの、昨年10月末にはお披露目を、12月初旬には協賛企業の後押しにより、ボッチャの交流大会を実現できました。「共生社会」を体感できる場所となったことで、研究にも熱が入るようになったと感じています。

この調査研究のデータの向こうにある、喜びの笑顔、真剣な表情を、ぜひ誰かの顔と重ねて思い浮かべ、いきいきとした心をもって、この報告書の分析や考察、実践報告に接してみてください。それぞれの立場から一肌脱げること、あるいは連携において一工夫できることはないかと問いかけ、その問いと答えが網の目のようにめぐらされ、活気に満ちた「共生社会」へと力強く進展することを願ってやみません。

令和3年3月

秋田県生涯学習センター

所長 鈴木 修一

目次

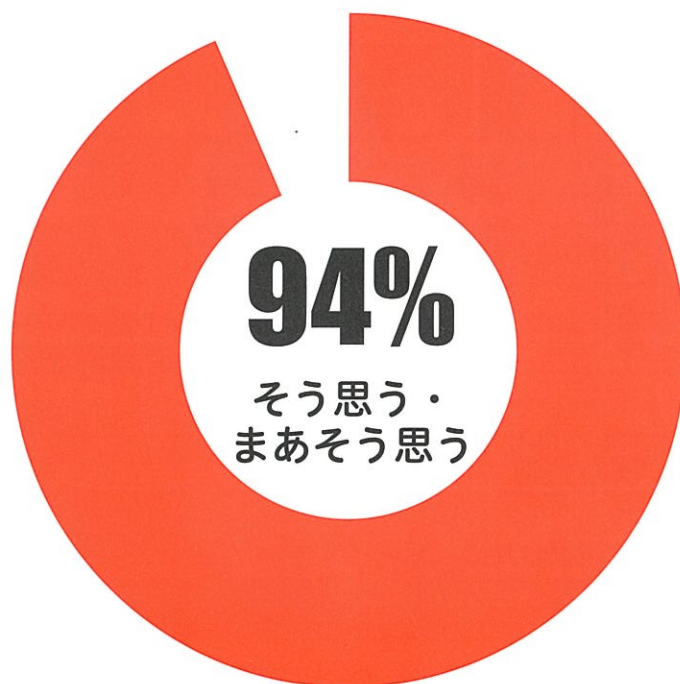
はじめに	1
目次	2
「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（概要版）	3
【調査研究】	
○調査研究について	7
○質問用紙（障害のある方の生涯学習に関するアンケート）	8
○「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（全体結果）	12
○「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（記述一覧）	19
○詳細分析（在籍状況別、地区別、障害者手帳別）	
・「生涯学習の経験」に関する分析	30
・「生涯学習を実施した理由」に関する分析	34
・「学習形態」に関する分析	38
・「学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか」に関する分析	42
・「生涯学習に関する課題」に関する分析	47
・「障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識」に関する分析	52
・問1～3考察、問4～6考察	56
○聞き取り調査	
・聞き取り調査実施一覧	57
・聞き取り調査結果（就業・生活支援センター8、特別支援学校16）	58
○考察	82
【研修】	
○市町村職員専門研修①実施レポート	83
○市町村職員専門研修②（兼）公民館等職員専門研修②実施レポート	85
【講座】	
○楽しみながら『防災』を考えよう！～障害のある方のための防災スキル～	
第1～4回実施レポート	87
○第1回 ブルーS3（ブルースリー）杯ボッチャ交流大会実施レポート	91
研究を振り返って	93
秋田県生涯学習センター調査研究事業テーマ一覧	94

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査(概要版)

秋田県生涯学習センターでは、秋田県内の全ての特別支援学校に在籍する高等部生徒の保護者、卒業後3年以内の卒業生の保護者の御協力をいただき、障害のある方の生涯学習（この場合は、主に学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事などの意味）について令和元年にアンケート調査を実施しました。

今回、主な結果を概要版としてお知らせいたします。右のグラフのとおり、障害のある方の生涯学習の機会が必要だと考えている保護者の割合は94%となっており、非常に高い数字となっています。

このアンケート結果が、「共に生きる社会」になるために、一人一人が自分の立場で何ができるかを考えるきっかけとなれば幸いです。



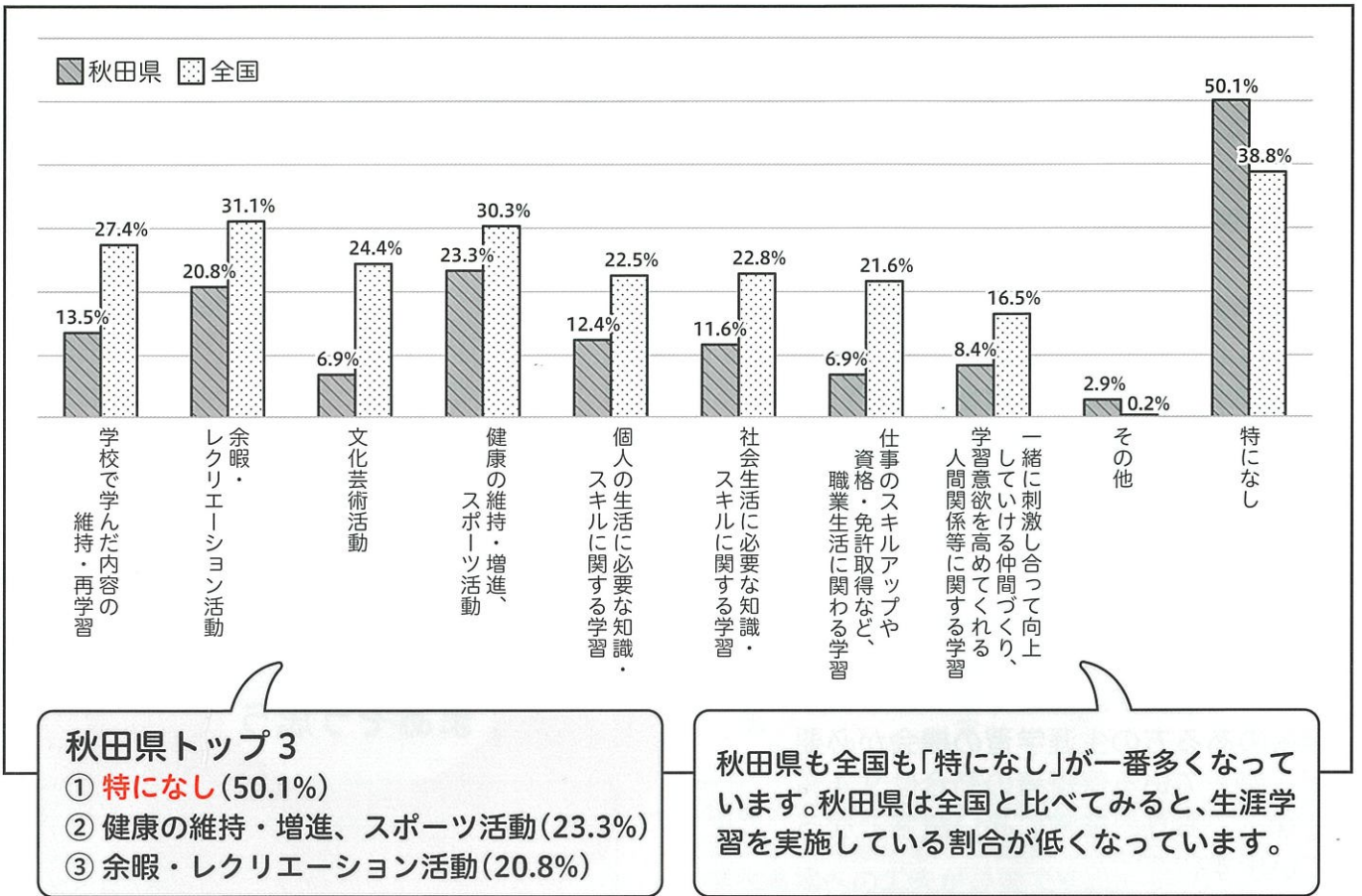
◎ 「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習の機会が必要だと思いますか。

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査について

- ◆ 対象
 - ・ 特別支援学校高等部生徒の保護者
 - ・ 特別支援学校高等部卒業生（卒業後3年以内）の保護者
- ◆ 実施時期
 - ・ 令和元年9月上旬
- ◆ 回答数
 - ・ 684名（回収率56.4%）
- ◆ 比較した調査
 - ・ 文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」
 - 平成30年11月実施・無記名式のインターネット調査
 - 4,650名が回答

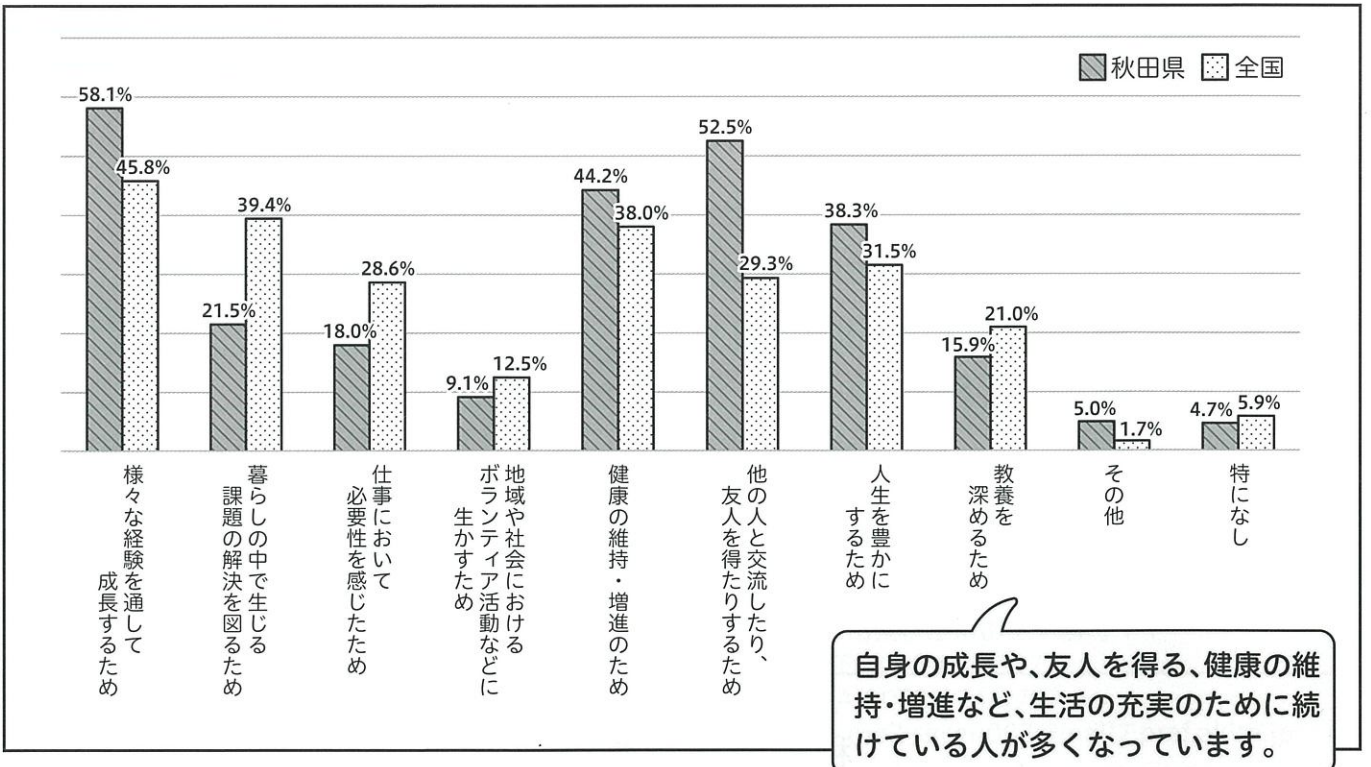
■生涯学習の経験

お子さんが、生涯学習で続けていることは何ですか。(複数回答可)



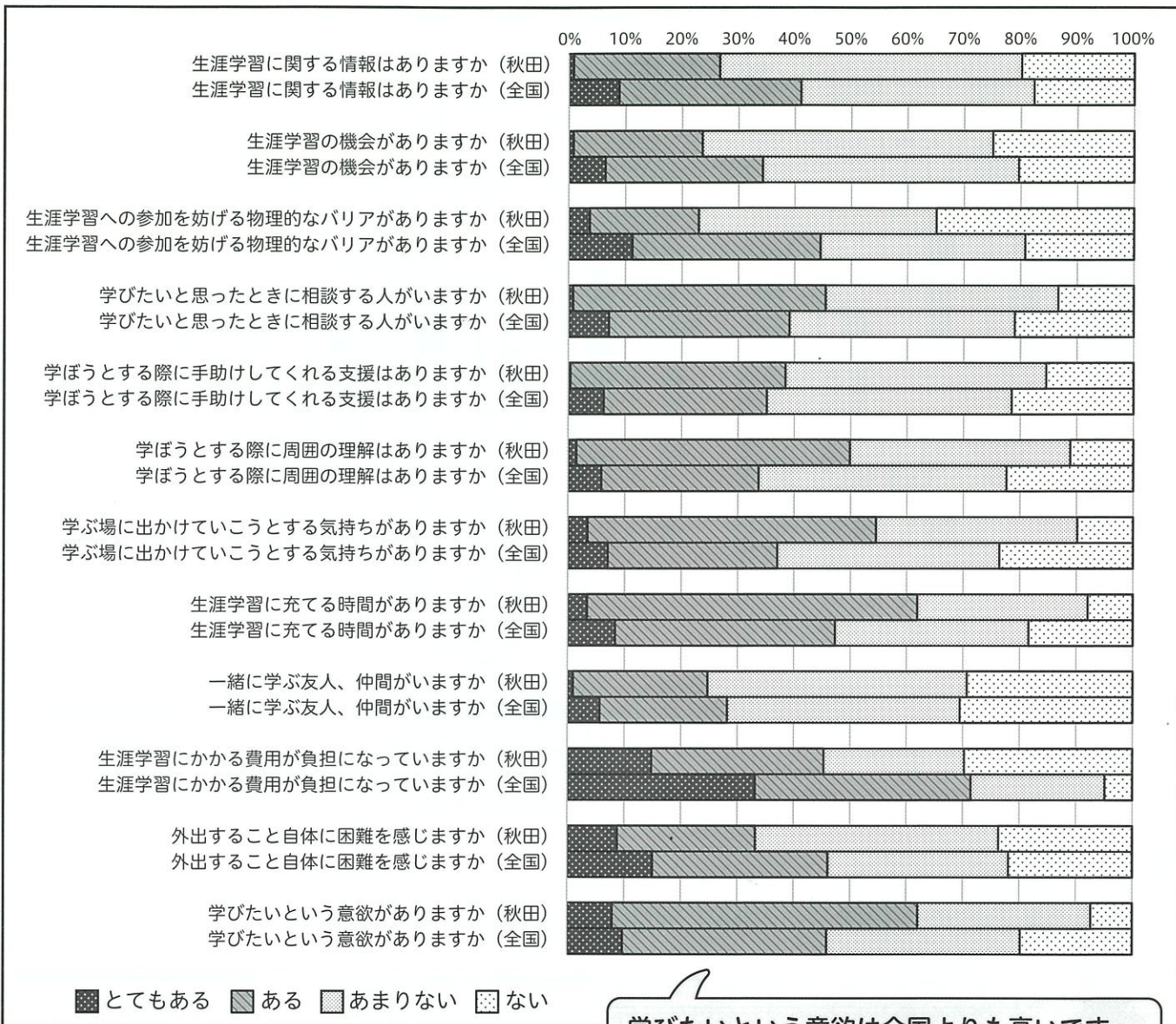
■生涯学習を実施した理由

お子さんが、生涯学習を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



生涯学習に関する課題

お子さんの生涯学習について、あてはまるものを一つ選んでください。



学びたいという意欲は全国よりも高いです。全国よりも生涯学習に関して前向きな意見が多くなっています。

物理的バリア (記述で多かったもの)

① **トイレ (ベッド含む)**

- 多目的トイレの有無もだが、洋式トイレがあるといい
- 大人用折りたたみベッドがほしい

② **段 差**

- 階段の段差が困る

③ **交通手段**

- 公共の交通手段がない
- バス停などの交通起点までのタクシー代等の支援がほしい

その他に、不安定になった時に**クールダウンできる場所**がほしい、物理的なものではなく、**周りから理解を得られない**などの意見がありました。

外出時の困難 (記述から)

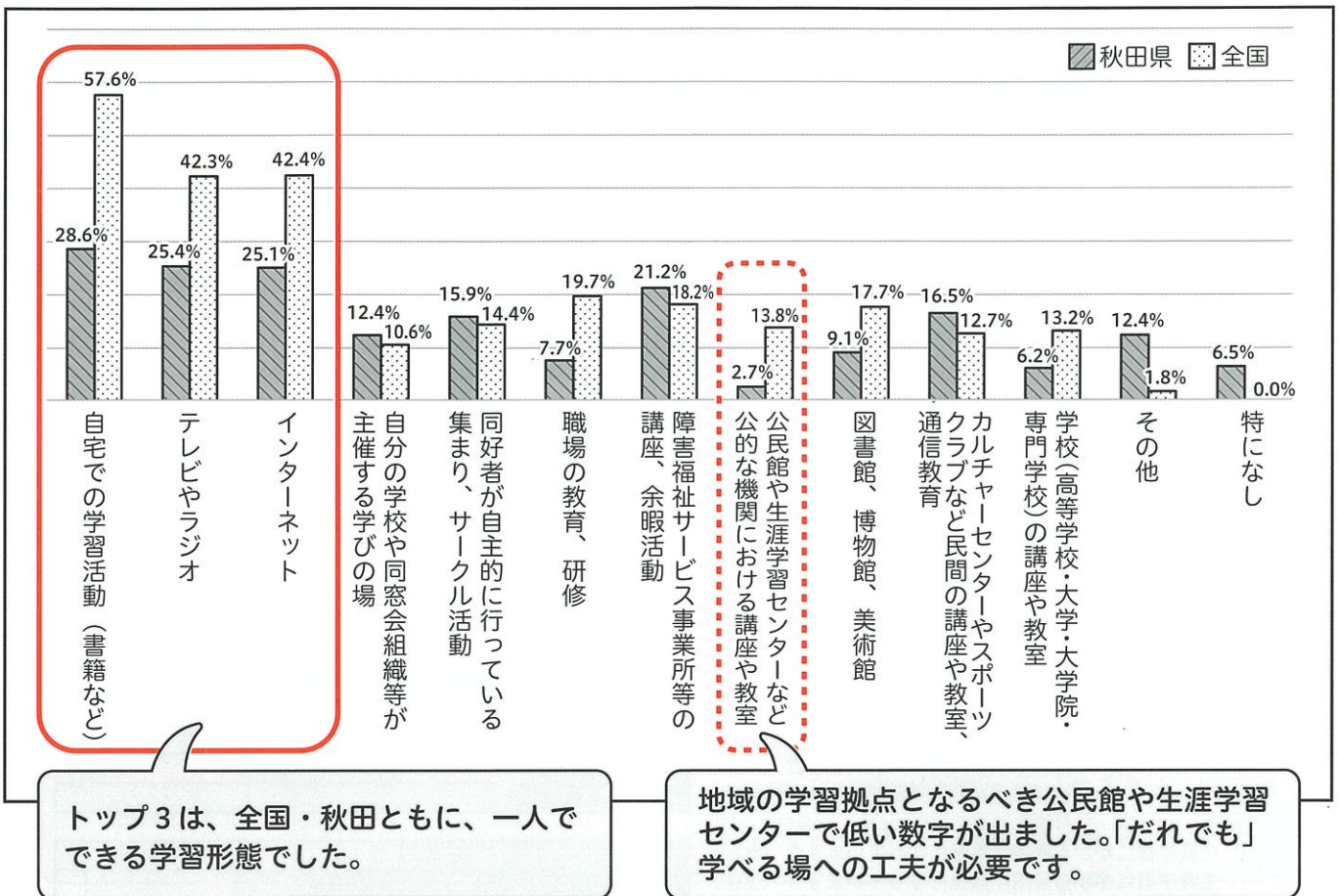
物理的バリアで記述されていたものに加え、次のようなものが多く書かれていました。

○ **保護者の負担**

- 常に保護者の付き添いが必要
- 大声を出すなど、予測できない行動を起こす時がある
- 私自身、体力に自信がなくなってきた
- 親も本人も高齢になった時が心配
- とにかく家から遠い、何もかも
- 周りの目が気になる
- 迷惑をかけるのではとってしまう
- 周囲の理解不足

■学習形態

お子さんは、生涯学習をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



■自由記述

障害のある方の生涯学習について御意見があればお書きください。



学習塾やスポーツ教室などで障害を理由に断られたことがあり、以来、障害者を対象としたイベント以外は行きづらくなっている。障害があっても学びたいことを学べる場が増えるとありがたいと思う。



田舎なので参加させたくても交通の便が悪く、いろいろ諦めたりすることが多いです。もっと地域ごとに参加しやすいのがあるといいのですが…



合理的配慮、特別支援という言葉を使わず、当たり前障害者と向き合える社会を築くことができればと思う。

ホームページもご覧ください！

<https://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>



秋田県生涯学習センター

検索

秋田県生涯学習センター

〒010-0955

秋田県秋田市山王中島町 1-1

TEL 018-865-1171

FAX 018-824-1799

E-mail sgcen002@mail2.pref.akita.jp

研 修

調查研究

講 座

調査研究について

(1) 趣旨

秋田県の生涯学習振興・社会教育推進の施策の方向性を定めるため、現代的課題に対応した調査研究を毎年度実施する。

令和元年度は、特別支援学校高等部及び卒業後3年以内の生徒の保護者向けに、「障害者の生涯学習」に関するニーズに関するアンケート調査を実施し、その結果を概要版としてまとめた。

令和2年度は、そのニーズ調査をさらに詳しく分析するとともに、「障害者の生涯学習支援」を実施している団体等への聞き取り調査も行い、今後望まれる障害者の生涯学習環境がどうあるべきかを研究する。

(2) テーマ

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査

～特別支援学校生徒の保護者アンケート結果による一考察～

(3) 調査研究の方法

- ① 調査研究委員会を設置する。調査研究委員会は、事業の全般的な計画を立案し、調査結果を評価・分析するとともに報告書にまとめる。
- ② 秋田県内の全ての特別支援学校に在籍する高等部生徒の保護者、卒業後3年以内の卒業生の保護者を対象にアンケート調査を行う。
- ③ 「障害者の生涯学習支援」に取り組む団体等への聞き取り調査を行う。
- ④ アンケート調査結果を広く知ってもらうため、概要版を作成し、配付する。
- ⑤ アンケート調査を詳しく分析した調査研究報告書を作成し、配付する。

(4) 年次推移

- | | |
|-------|---|
| 令和元年度 | ・調査研究委員会の設置
・アンケート調査の実施
・概要版の作成・配付 |
| 令和2年度 | ・調査研究委員会の設置
・聞き取り調査の実施
・調査研究報告書の作成・配付 |

※今回の報告書で「地区別」と表現しているのは、就業・生活支援センターの担当市町村をもとに区分している。具体的には次の通り。

県北	大館市・鹿角市・小坂町
能代山本	能代市・藤里町・三種町・八峰町
北秋田	北秋田市・上小阿仁村
中央	秋田市・男鹿市・潟上市・五城目町・八郎潟町・井川町・大潟村
県南	大仙市・仙北市・美郷町
横手	横手市
湯沢雄勝	湯沢市・羽後町・東成瀬村
由利本荘にかほ	由利本荘市・にかほ市

障害のある方の生涯学習に関するアンケート

秋田県生涯学習センター

平成28年に「障害者差別解消法」が施行されました。この法律は、障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、「共に生きる社会」をつくることを目的にしたものです。このアンケートは、秋田県生涯学習センターが、「障害のある方の生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）」を充実したものにすることを目的として実施するものであります。保護者の方が回答して下さるようお願いいたします。個人は特定されることはありませんので、安心してご回答ください。

1 お子さんが、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）で続けていることは何ですか。あてはまるもの全ての記号に○をつけてください。

- ア 学校で学んだ内容の維持・再学習
イ 余暇・レクリエーション活動
ウ 文化芸術活動
エ 健康の維持・増進、スポーツ活動
オ 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習
カ 社会生活に必要な知識・スキルに関する学習
キ 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習
ク 一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めしてくれる人間関係等に関する学習
ケ その他
コ 特になし → 4に進んでください

2 お子さんが、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）を続けている理由は何ですか。あてはまるもの全ての記号に○をつけてください。

- ア 様々な経験を通して成長するため
イ 暮らしの中で生じる課題の解決を図るため
ウ 仕事において必要性を感じたため
エ 地域や社会におけるボランティア活動などに生かすため
オ 健康の維持・増進のため
カ 他の人と交流したり、友人を得たりするため
キ 人生を豊かにするため
ク 教養を深めるため
ケ その他
コ 特になし

3 お子さんは、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）をどのようにして続けていますか。あてはまるもの全ての記号に○をつけてください。

- ア 自宅での学習活動（書籍など）
- イ テレビやラジオ
- ウ インターネット
- エ 自分の学校や同窓会組織等が主催する学びの場
- オ 同好者が自主的にやっている集まり、サークル活動
- カ 職場の教育、研修
- キ 障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動
- ク 公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室
- ケ 図書館、博物館、美術館
- コ カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育
- サ 学校（高等学校・大学・大学院・専門学校）の講座や教室
- シ その他（ ）
- ス 特になし

4 お子さんの、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）に関する情報、学ぶ場や機会について、あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

- ① 知りたいことを学びたいと思うときに、必要な情報はありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ② 知りたいことを学ぶための場や機会は身近にありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ③ 身に付けたい技術があるときに、必要な情報はありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ④ 身に付けたい技術を学ぶ場や機会は身近にありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑤ 文化や芸術に触れたいと思うときに、必要な情報はありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑥ 文化や芸術に触れる場や機会は身近にありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑦ 身体を動かしたいと思うときに、必要な情報はありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑧ 身体を動かす場や学習プログラムは身近にありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑨ 仲間と学び合いたいと思うときに、必要な情報はありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑩ 仲間と学ぶ合う場や学習プログラムは身近にありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない

5 お子さんの生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）について、あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

① 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）に関する情報はありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

② 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）の機会がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

③ 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）への参加を妨げる物理的なバリア（階段の段差、多目的トイレの有無等）がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

それはどんな物理的なバリア（階段の段差、多目的トイレの有無等）ですか。よろしければお書きください。

④ 学びたいと思ったときに相談する人がいますか。
ア たくさんいる イ いる ウ あまりいない エ いない

⑤ 学ぼうとする際に手助けしてくれる支援はありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑥ 学ぼうとする際に周囲の理解がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑦ 学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑧ 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）に充てる時間がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑨ 一緒に学ぶ友人、仲間がいますか。
ア たくさんいる イ いる ウ あまりいない エ いない

⑩ 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）にかかる費用が負担になっていますか。
ア なっている イ すこしなっている
ウ あまりなっていない エ なっていない

⑪ 外出すること自体に困難を感じますか。
ア とても感じる イ 感じる ウ あまり感じない エ 感じない

それはどんなことですか。よろしければお書きください。

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（全体結果）

■アンケートについて

- 対象
 - ・ 特別支援学校高等部生徒の保護者
 - ・ 特別支援学校高等部卒業生（卒業後3年以内）の保護者
- 実施時期
 - 令和元年9月上旬
- 比較した調査
 - 文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」
 - ・ 平成30年11月実施、無記名式のインターネット調査で4,650名が回答

■アンケートデータ

①性別

男	女	無回答	計
400	199	85	684

②在籍状況

高等部1年	高等部2年	高等部3年	卒業後1年	卒業後2年	卒業後3年	無回答
130	107	149	74	81	53	90
386			208			

③回収率

全体	高等部	卒業後
56.4%	63.3%	34.6%

④生活状況

家族と同居	一人暮らし	職場の寮	グループホーム	その他	無回答
541	0	1	6	48	88

⑤障害者手帳

身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	持っていない	無回答
97	495	46	29	88

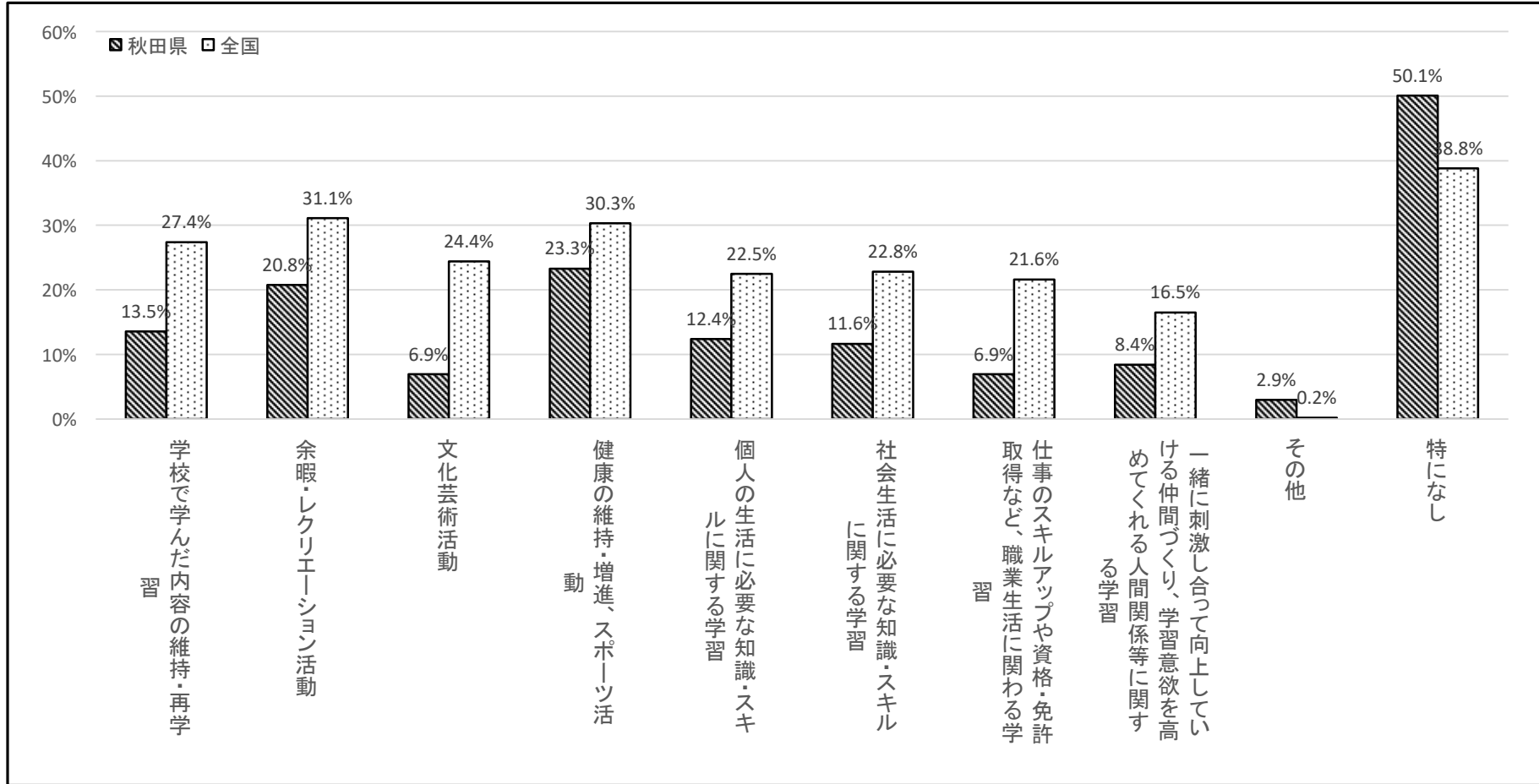
障害者手帳保有率 82.9%（うち複数保有） 12.3%

⑥居住市町村

秋田市	能代市	横手市	大館市	男鹿市	湯沢市	鹿角市
159	24	44	47	11	33	19
由利本荘市	潟上市	大仙市	北秋田市	にかほ市	仙北市	小坂町
57	29	56	23	14	23	4
上小阿仁村	藤里町	三種町	八峰町	五城目町	八郎潟町	井川町
3	3	4	2	4	0	4
大潟村	美郷町	羽後町	東成瀬村	無回答		
1	12	11	2	95		

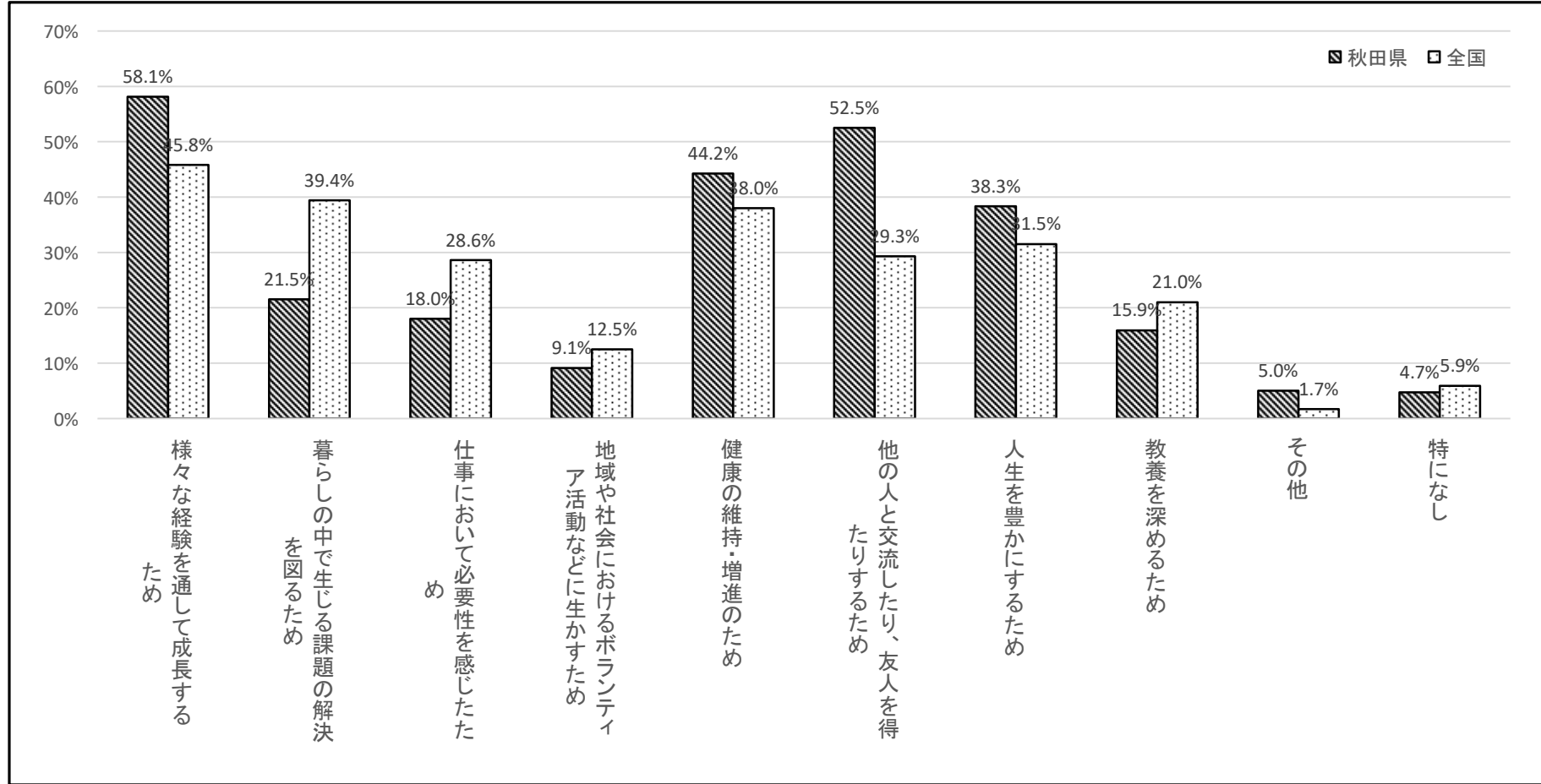
■生涯学習の経験

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)で続けていることは何ですか。(複数回答可)



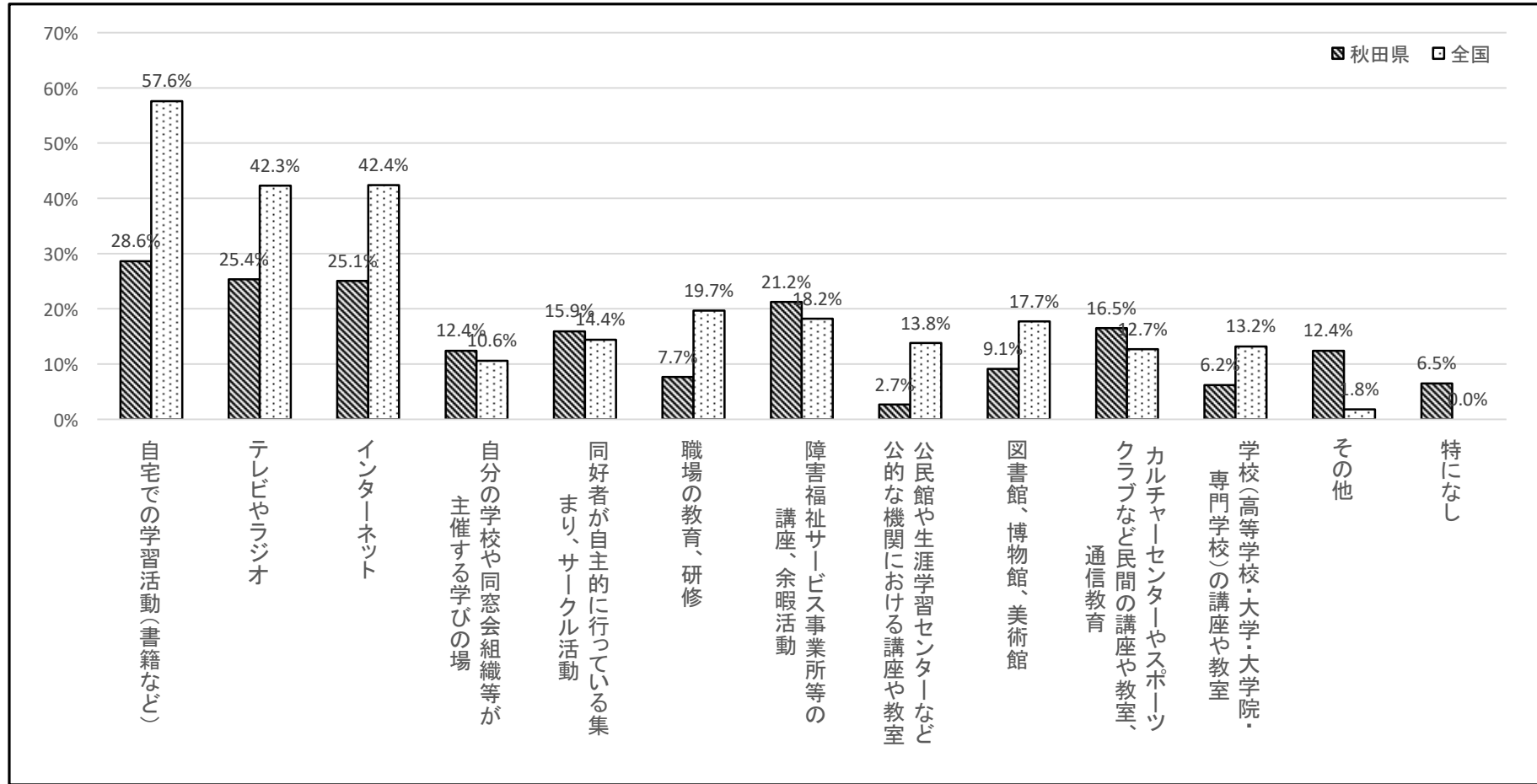
■生涯学習を実施した理由

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



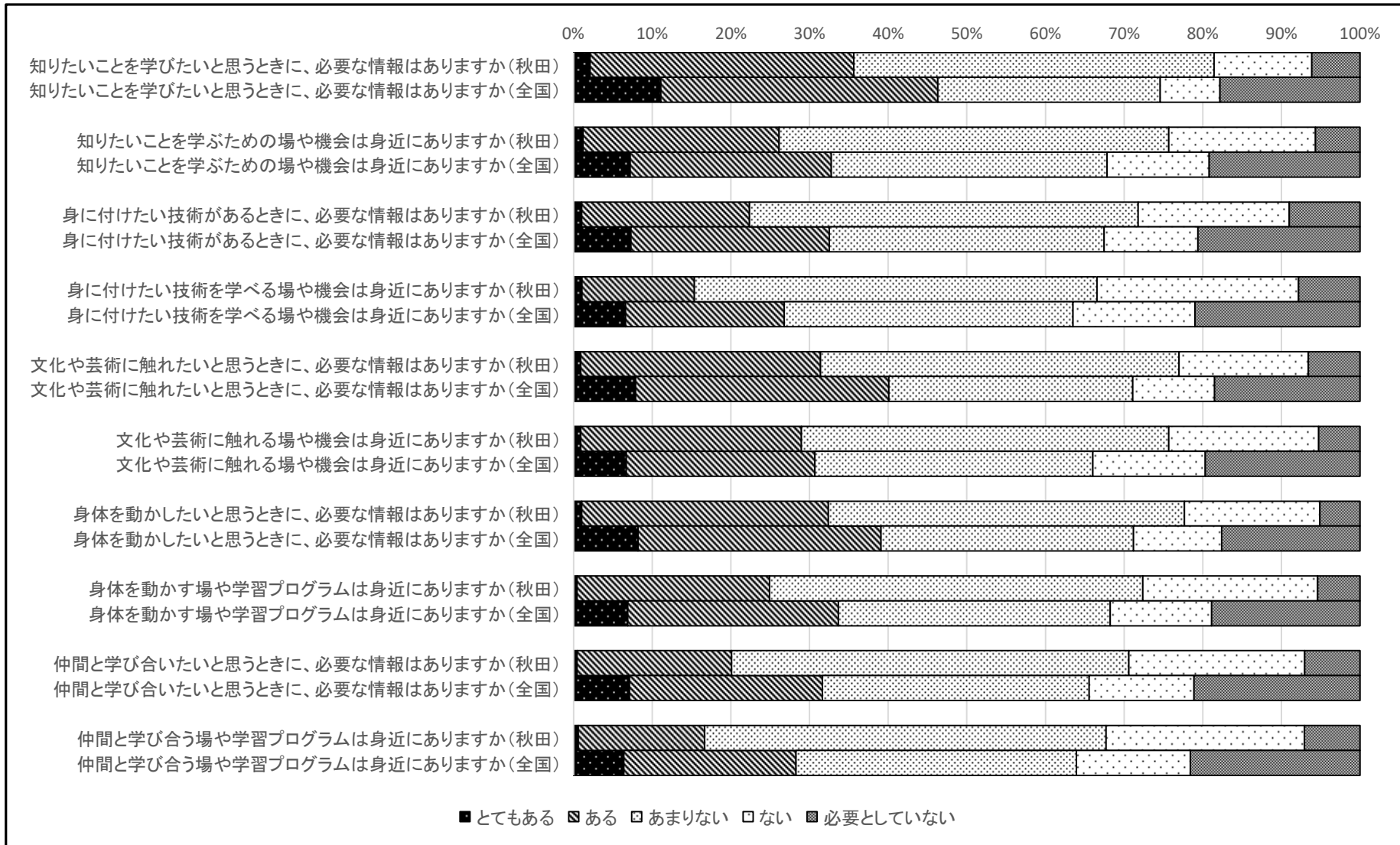
■学習形態

お子さんは、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



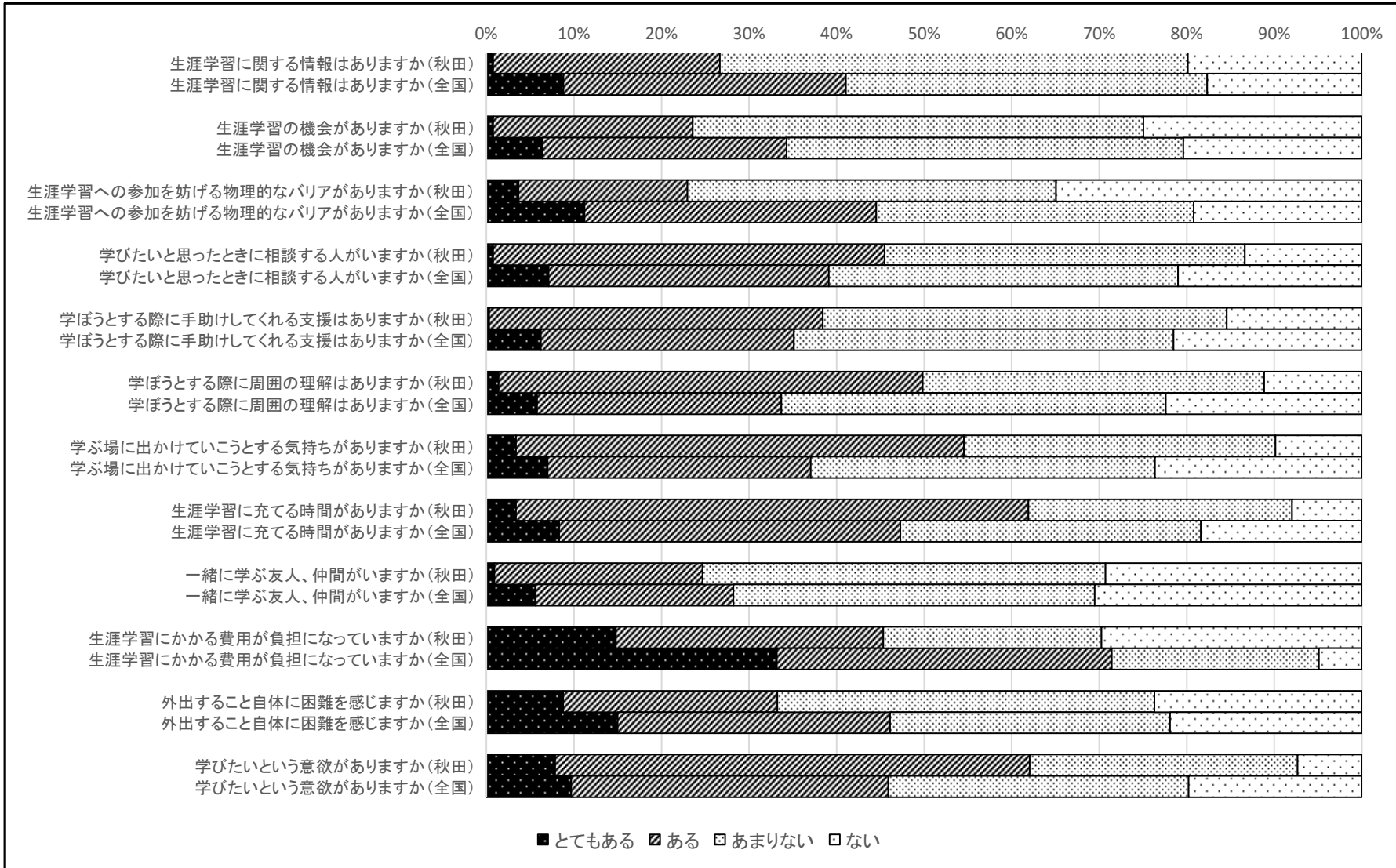
■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



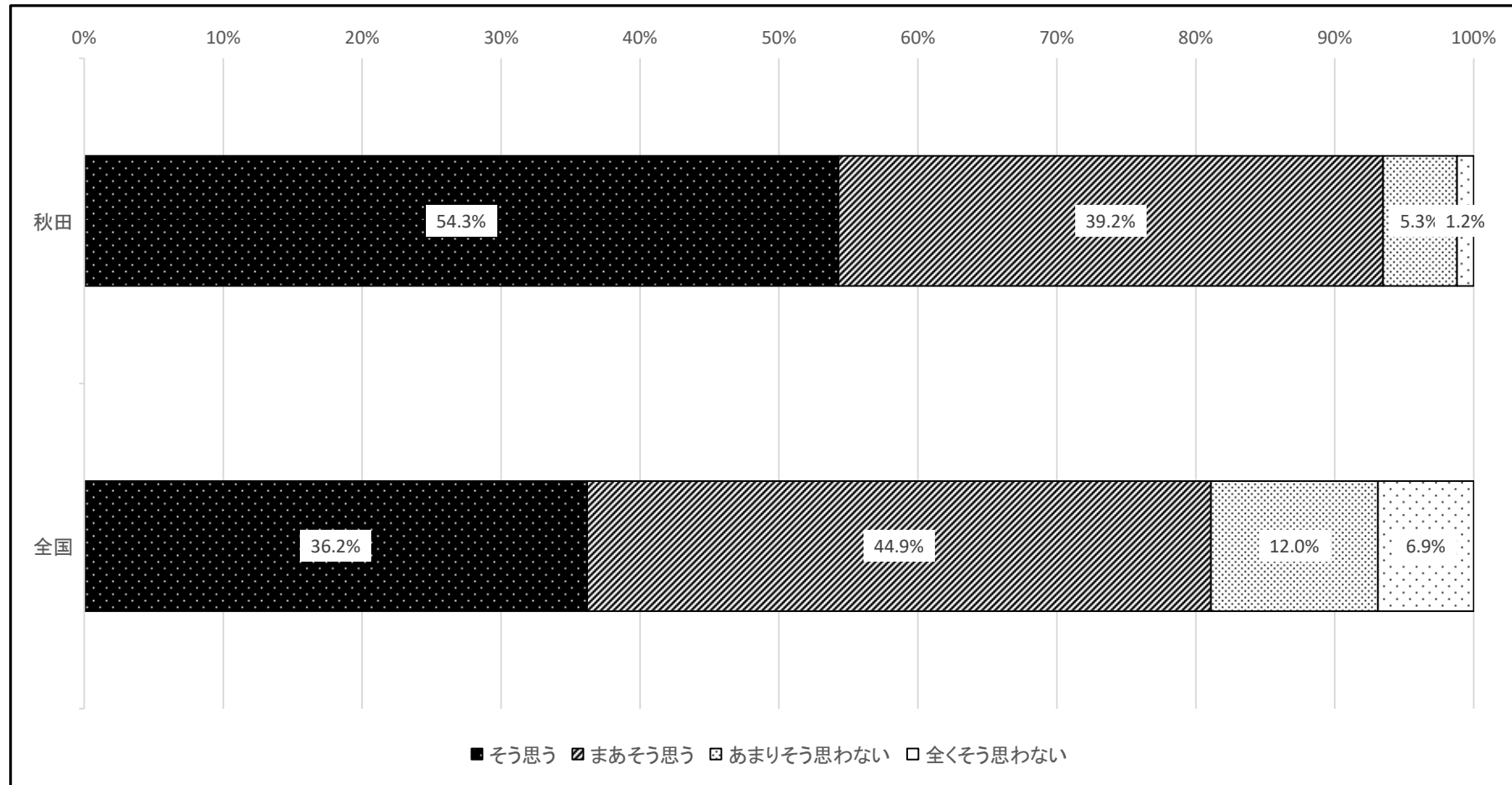
■生涯学習に関する課題

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



■ 障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識

「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)の機会が必要だと思いますか。



■全記述回答

※基本的に原文のままです

1-ケ その他記述	2-ケ その他記述
読み書きそろばんを少しでも身に付けられるかもしれないので続けています。	好きだから
ピアノ	親同士の交流、情報交換のため
ピアノ	好きだから
リハビリテーション	進学に向けて、本人の意思
英語塾	ただ好きだから
好きな語学	将来の仕事に役立てたい
インターネット学習教材（国数英）、ユーキャン デッサン講座	本人が継続したいと希望したため
ボランティア活動	好きだから
デイサービス、療育センター訓練	指を動かす事で脳に刺激を与えるため
ギター	NPO法人の活動を支えたい
ピアノ	1日のルーティン、暇つぶし、気分転換
長期休みの時は施設利用している。	できることをやらせたい
読書（図書館に通うこと）	仲間がいるということと、楽しめる時間があるということ
部活に入っていた時に行っていた筋トレ	自分で勉強したいと思っている
	ストレス解消

3-シ その他記述
ピアノ教室へ行く
親が送迎（車）しているので、将来的にはできなくなる。
個人の先生に月謝を支払って習う
育成科の先生にみてもらっています。
自宅
個人的に依頼
北部エリアなど。スーパーでの買い物、公園など
中学の時の部活コーチに頼まれ後輩に指導している
放課後デイサービス
北秋田市障害者生活支援センター主催の学びの場
家族と温泉、動物園
講師の先生に習っている
特体連サッカー
休日など時間に余裕のある時
県強化選手（サッカー）
デイサービス
自学
医療療育センターで専門的にみてもらい継続する。
友人とのテニス
休みを利用している
秋大学生によるボランティアサークルのような活動
親子でプールに行く
個人の教室
週3回位のペースで指導を受ける
自主的に行動
電化製品の組み立てやほごす作業
親子での活動
ボランティア団体の主催するスポーツ講座
NPO法人 フライイングディスク
家で時間のある時
スマホ、タブレット
塾
卒業した中学の部活にOB参加や自主トレ

多目的トイレの有無
多目的トイレ
交通手段
障害の種類によっては、保護者の付き添いが必要な場合、様々な理由で断られたりする。逆に、学習内容によっては、一方的に年齢で付き添いの条件が付けられたりする。付き添わなくてもボランティアがついてくださるなどしてもらえれば、助かるのだが…。
路線バスを乗り継いで行くため、往復の時間がかかりかかる。時間に間に合わないので参加をあきらめることがある。
移動のためのバス路線、適当な運行時刻。※バス停、駅など公共の交通機関の起点までのタクシー代等の支援があればよし！
何をするにも不便だらけだと思います。
移動、学習の場において、常に保護者の介助が必要。一緒にやりたくないわけではないが、介助も含め受け入れてもらえるような場があるとよい。
他にはありません
段差、トイレもですが、通路の幅が車イスでは通れなかったりエレベーターがない等
階段、トイレがせまい
階段、トイレがない せまい 車イス 駐車場が少ない
行動手段が家族送迎を前提としているところ
多目的トイレでもベッドが配置されているところがあまりない
多目的トイレ
雨天時の屋根があるパーキングがないので、こまる。トイレのベッドも小さいものばかりでやりづらい。
段差
階段の段差、多目的トイレの有無、交通手段
外ぐつをはく時の座るスペース、段差
受入れが悪い やらせたいのにあぶない言葉多すぎ
施設等 WC つくりがバリアフリーでない所がまだまだ多い
歩道と道路の段差
(質問文の階段の段差、多目的トイレを指し) この事もですし、電動車イスを使用しているためベッド付きでないトイレや、せまいう下等
大型の車イスを使用しているため、移動が困難であるため多目的トイレですらせまい。
階段の段差(車椅子が通れない)
公共の交通機関がない
常に介助が必要な状態なので(車イス使用)正直やさしくない所ばかりに感じる
自閉症なのでクールダウンできる場所が確保されていて欲しいし、ニガテな場所(なれるまでの間)だった時は、落ち着く手段がすぐあると嬉しい！自分の子供の場合は初めての場所や「待つ」ことや不特定多数の人がいると落ち着かないので自分の場所「いす」があると落ち着きます。もちろんあらかじめわかる時は持っていったりもしています。
近いところにトイレがある場所と、探してもわかりづらい場所にあったり大変です。
階段の段差もだし、多目的トイレも無い所が多い。
大館市内には、趣味や習い事等の場所や活動しているサークル等が少なすぎる。
トイレはだいたい洋式になってきたが、屋外施設の場合まだ和式が多い。
階段の段差、トイレ両方
交流場所等自体がない！！受け入れてもらえない！！
地域的に遠い所に住んでいる事
公共の場、総合体育館、野球場など観戦する所など、多目的トイレ中心のおむつを変える大人用折りたたみベッドが無いこと
まず、寝たきりの大人が使えるようなベッドがついているトイレがない。冬は暖房が無く寒すぎるし、夏は暑すぎ。階段の段差、多目的トイレ。
常時介助が必要なため、不安定になった時クールダウンができる個室
交通手段が不足している(バス、電車の本数が少ない)
階段の移動だったり、多目的トイレがなかったりすること
自動ドアは大丈夫だけど、手動ドアのドアノブにさわるのが苦手
そういった施設や場所が分からない
トイレが少ない
トイレがあまりない
段差やトイレの数
手すり、段差、玄関、エスカレーター、トイレなど
両親の介護や仕事など、時間をとることが難しい。／本人の気持ちが向かない時もある。(初めての場所、にぎやかな所が苦手)
プールに行きたいが障害者用トイレや着替え室がない

5-③ 記述

近くのプールで障害者用更衣室（付き添い可）がない
よくわからない
移動手段
公共交通機関、アクセスの悪さ、またはその場に行くのは難しい（合う時間のものが全くない）
プールを利用する際、父親がいなければ着替えをすることが困難。男子更衣室を1人で利用するにはかなり困難を伴う。
車椅子用のトイレ、階段の段差等
移動手段（バスなど）
車椅子用のトイレが必ずしもないので困る。母と息子の場合は女性用トイレ、父と娘の場合は男性用トイレに行かないといけませんが、年齢が進むにつれ、困難になってくる。
多目的トイレの有無もそうですが、洋式トイレを増やしてほしいです。和式トイレを使うことができません。
秋田市はあるかも
本人の状態によるもの
多目的トイレか洋式トイレがあるとよい。駐車場が狭かったり、遠かったり、少なかったりすること。
公共の交通手段を一人で利用できず、家族の送迎が必要
イベント等があっても、自力（徒歩）で行ける場所ではなかったりする。
体の障害は、知能の方だけで、歩行は普通です
他の人に迷惑をかけず過ごせるようなスペース
重度障害のため、入所しており、その日課で生活している
情報が少ない、参加の仕方が分からない、仕事の休みと合わない
物理的なものではなく、公共の場利用において理解が周りから得られない。
多目的トイレの無いこと
一般の中での勉強の場で受け入れてもらえるか心配
近場にそういう機会がない
人間関係
目的地へ行く為
道路の不備や階段がありバリアフリーがない所もある
トイレ（オムツ交換）や食事・休憩等で使用できる個室
近くにない為、一人で通えない
公共施設が使えないことが多い
階段の段差、多目的トイレなどのバリアフリー化。

常に保護者の付き添いが必要だから。
交通の便が悪く、自家用車で送迎が必要な場合が多く、自力で外出できない。
見えない障害（知的、自閉症）のため、付き添いが必要であること。他者との意思疎通が難しいこと。結局は親に頼るしかない。でも親は子どもと共に生きられません。将来、安心できる環境を少しでも早く、多く、整えてほしい。
秋田県は障害に対しての理解などがまだまだ足りないと感じている。
どんどんバス路線や運行数が減らされている。
交通面、歩行面 全て困難
地元と一緒に学ぶ友人も、ほとんどいなく、友人がいる所となると遠くて移動の費用と時間がかかるため福祉サービスの不足、周囲の目
5③と重複するが、保護者の負担が大きいこと。
家族以外の人と一緒に付き添って活動に参加できるサービスがあれば良い。外出支援など。
車イス用駐車スペースの空きがない
長時間が難しい 全介助が必要のため 車イスで入り寝て取りかえられるトイレが少ない 公共交通機関を使うのは全く思わない 相手にも迷惑がかかると思ってしまう 超高齢化社会の先をゆく秋田なのだから (お金のない県、でも見栄っばりの県だから) バリアフリーや福祉もどんどん充実させて、老人や身体の不自由を抱える人たちに優しい、先行く県となってほしいです！！
移動手段。特に寒冷地である秋田は積雪時に車椅子の移動が困難。
車イスで道路を歩くときの段差が気になる
子の体格や親が介助するのに体力的なことで大変
交通手段、介助者不足
交通手段が少なく思った時に移動できない
移動 車でも交通機関利用でも 宿泊などすべて
体が大きくなり、私自身、体力に自信がなくなっている。全介助なので…
今年で19才ですし、母一人の時はトイレが大変なので… 大は、もちろん尿器を使いこなしていないので失敗しても着替える場所がない場合がある為
駐車場の場所や天気、エレベーターの大きさ、トイレの大きさ、全て考えると出かけようとは思えない。
子供が好きだけど、いきなりさわろうとする。相手はビックリしてしまう。人が多いとイライラしたりして、大声を出したりする。
歩行が困難なので外出しにくいです
送迎が必要なこと、交通機関をうまく利用できないこと
認知が乏しい本人が、何かを選んで行動に移すことはとても難しく、介助の人が結果やることになるのが生涯学習につながると思えない。それでも、行っているデイ等で様々なことを体験させてもらっているのので、今はそれでいいと思っている。自分で選択してできる人たちをうらやましく思ってしまう。
たくさんあるので書ききれません。1つ、障がい者の家族という視点から家族本位で書かせていただくと、あたたかく見守ってくれる方ばかりではないので社会に出るといことは周りにとても気をつかうということと、親も若い時は若さでなんとかこなしていたが、今は子供の体力の方が上なので、出掛けたあとはとてもつかれを感じます。
交通が不便。バスの本数や時間が少なすぎる。
外出先で本人が困った時に、理解、サポートしていただける方がいるか分からない
他人の目。迷惑をかけてしまわないか心配。本人が辛い思いをする。本人が楽しめるか不安。
他の人の迷惑になってしまう事や、条件があって、なかなかやらせたり事にたどりつけない。人生の楽しみを見つけてあげたいのに、出会いもなければ情報もサークルもないようです。
現地までの交通手段。路線バスが少ないため
外出移動は一人では困難。
障害が重いので、つれて歩くのに大変
交通機関がちょっと少ない事と、自転車にのれるので汽車に自転車をのせる事が出来たら、行動範囲が広がって自分で買い物なども出来ると思います。
体も大人で大きくなってきているので何かあった時抑えがきかない。
ヘルパー支援を利用しているが、ヘルパーさんが利用出来ない時には外出出来ない。
交通手段、バスや電車の運行が少ない。
周囲の視線が気になるくらいです。
人見知り、交通手段等
交通手段が少ないのと本人を理解して受け入れてくれない
時々パニックで泣くことがある
交通手段
他の子の行事や仕事などで、子どもを連れて出かける余裕な時間がつくりにくくなった。
場所までの手段
バギーなので移動が難しい。人混みなんかでは邪魔にされることも多く、外出することは少なくなってしまっている。トイレの面も、段差などもつらいです。エレベーターも狭ければ乗るのも大変です。

5-⑪ 記述

大きな声を出したりすることで、他の人の迷惑になるのではないかと思ひ、外出がおっくうになる。本人は出かけたらいようだが、それにつきそう保護者の負担は年々大きくなる。

本人が行きたいとき、仕事のときがある

本人の体調やバリアフリーの場が少ない

クラス、学校の子とも知らない人と交わる事を困難に感じる。あまり会いたくないので、なかなか行事に関われない。あちこちに色々な催し物(教室)があり、行けばいいなあいつも思っていますが…。

付き添いが必要なため、付きそう人に時間の余裕がないと行けない。

車椅子での移動が困難な場所

生涯学習が行われる場所への送迎。休日、生涯学習に参加することに負担を感じる。(親も子も)

車椅子なので、飲食店の段差や障害者トイレの少なさ

人に対して危害を加えるため

住んでいるところの交通の便が悪い。

生活面での自立ができていないことが多いので、親がフォローしてあげないと外出することができないため。

本人への指示が入らない時、まわりの理解

姉も作業所なので

バスでの移動

ひきこもってばかりいる

付き添いが必要

外出先で不安定になる事が増えてきているため

まわりの理解

親が元気なうちは一緒に通えるが、親も本人も高齢になった時どうなるのかと心配

周囲の視線

一人だけで交通機関を利用する事ができない。暗黙の社会的ルール等分からない事が多いので周囲に迷惑がかかる。

バスの便があまり良くない

公共交通機関、アクセスの悪さ、またはその場に行くのは難しい(合う時間のものが全くない)

本人が外出することは困難ではないのですが、付き添いが必要な時、下の子どものことがあるので、難しいと感じることがある。

息子のため、母がトイレの介助を外ではできず、多目的トイレがあった場合であっても、一緒に利用する場合周囲の目がきになる。知的障害のため、一見すると普通の男性のため、より一層周囲から変な目で見られ免許がないので(本人が)、親の送迎がないと外に出かけようとしない(その気にならない)

本人があまり行かない

子どもの行動、言語に対するまわりからの目

移動手段

買い物さえ行けない

小学校時代からいじめを受け、同級生と会うことを避けている。地元で出歩くことがありません。

一人で行動できない時のフォローが必要だったり同行する場合のみ、同行者(兄や母)が仕事を休む必要が出てくるなど

近場だとあまり感じないが、遠いとお昼代とガソリン代がかかるのと、外出以外の仕事があったりするので疲れる。

人的支援

公共の場で大声を出すなど突発的な行動をとる。ひとりで走り出して行方不明になる可能性がある。

人混みによろ。外出すること自体がおっくう。

学びたいという興味や情報は知りたいと思うけれど、迷惑かけるのではと思いためらってしまう。

こだわり等があるので

常に見守りが必要

とにかく家から遠い。何もかも。

本人が興味を持ってくれない。

- ・自力(徒歩)で、1人で安心して安全に行ける場所が限られる。
- ・バス・電車等の利用が不便で、どうしても車での送迎が必要になる。

本人がやりたいと思っけていても、やれる場所 仲間がない

外に出ない、仕事は行く

親以外にたよれない

親の送迎が必要となっている

他人との関わりに本人が消極的な為、むずかしいのが現実

特殊な車イスを使用しているため、車の利用が困難。

重度障害のため入所している

すべてに介助が必要な為。

付き添いが必要

5-⑪ 記述

本人の自傷行為による大声（叫ぶ）が大きすぎてなかなか公の場へ行けません。
自分で行動する手段（公共交通）をあまりもってない バス、電車等
遠距離な所に行く時
外出すること自体。一人では行動できない。
全てにおいて親自身が見守り、必要以上に気をつかいといったことがおっくうで、外出したくないときがある
大声を出してしまったり、予測できない行動を起こす時がある。
偏見
障害や、障害者に対する理解が少ないため、周囲の協力が少ない。持病で、運転免許はとれず、バスは一日に2～3本しかこない。駅までは2km以上歩かなければならない。
送迎
一人では外出させられない（多動やパニックがあるため）
目が離せない
周りがやった方がよいと思っていても、本人がイヤがることもある。
子供があまり外に出たがらないから
遠い
知的障がい者への周囲の理解不足
バスの本数が少ない
本人が外出したがらない
問題ないから
家族や周囲の理解がない。
周囲からの冷たい視線
決めたルールを守りにくい。
車いすを使用する為、スムーズに動けない時もある
重度の身体障害と知的障害がある為、全介助の負担と社会のバリアフリーが、あまり整っていないこと。
本人が知らない人の中に入っていけない
自力での移動時、交通機関のアクセスが不便
スポーツのルールが理解できない
つきそいが必要だが、共働きの為、難しい
交通の手段があまりない
車イスのスペース（駐車場）が少ない、色々な段差
1人で路線バスに乗れない。
交通手段の選択肢がない
母親の車でどこにでも行けるが、一人での交通手段が路線バスしかない（本数も少ない）
常に困難がある。危険なもの（車等）が分からないため、常に見守りが必要で神経を使う。また、ところかまわず、服を脱いだりする。てんかんの発作もあり、倒れたりもする。
本人が外出したがらない。
つき合う友達からの影響力。お金の使用の仕方。
周囲の人たちに特に知らない女性に声をかけないように気をつけて行動しています。

⑦ 記述

「共に生きる社会」は必要だと思うが、あまり障害のある方とか障害のある人など特別扱いしないでほしい。実際ない人たちと共に笑顔で生きようと頑張っていて、区別されたり言葉を使われたりするのはい。こういったアンケートも好みません。

マナー講座や生活に必要なお金の勉強、掃除や収納など、生きていくのに必須だと思うスキルを、障害に合わせて易しく丁寧に教えてくれる習い事がほしいです。後、話し方や会話もあると良いです。

学校を卒業後、何か余暇活動ができればと考えていますが、障がいがあっても受け入れてくれる活動がどのくらいあるものかが分かりません。

どんなことにおいても「障害があるからダメ」とは言われたい。が、実際理解してもらえないかどうかは不安があるので、どうしても「障害者のための～」という場所を選んでしまう。安心して受講できるように人的サービスがほしい。保護者の付き添いがなくても大丈夫な環境が保障されていればもっと外に出られると思う。

在学中は何かしらの情報がありますが、卒業してしまうと全くありません。

卒業してから始めるよりも、在学中に生涯学習に触れることで、卒業後も続けられるように思います。だから、学校を通じて紹介していただいたり、体験したり、本人だけで通える環境が整ってほしいと思います。一般の方が利用している所でも、快く入会させてくださるところがあり、嬉しく思っています。

学校生活では教師の指導のもと、様々な行事を通して安定した学びができていた。卒業すると作業所と会社などと自宅との往復以外に学びの場は皆無である。ほとんどの人は、運動量が減り、太ったり内向的になるなど、身体、精神的に多くの不安を抱えている。

秋田県は福祉に対しての取組が遅れていると思う。他県では障害者が生き生きと活動している様子が見られ、とてもうらやましいと感じている。

学生時代から習っていたことを継続したり、一般のスポーツサークルに通ったりしているが、すごくお金（月謝）がかかる。障害年金を利用し払っているものの、B型就労で工賃をもらっているものには、何をさせるにもためらってしまう時が多い。また、お金の使い方を教える難しさを今、痛感している。

学校卒業と同時に、療育センターも卒業といわれ、ST、OTを続けたくても続ける場がない。

相談するのは通っていた特支校などですが、先生方々が異動してしまったりすると、なかなか相談しにくい。一般の習い事をするとき、子どもの障害を説明するなど理解してもらうのに時間がかかる。

市の広報などに、スイミング教室の案内を載せるなど、もっと簡単に情報が手に入る仕組みが必要。もっとスポーツのできる場所、イベントなどあってほしい。

地元と同じような障害がある友達がほとんどいなく、あまり外に出たがらないので、集まる機会があれば行きたいと思いますが、どこでどのような集まりがあるのかわからないため、行けずにいます。また、どのように調べるとわかるのか知りたいと思います。

住んでいる地域にもっとそういう活動ができる機会があれば良いと思う。地域の人々と関われる機会が少ない。

なし

動けず、寝たきりの場合、なかなか生涯学習というのも難しい。このアンケートで改めてそう思いましたが、選択肢を読んで参考になることもありました。ありがとうございました。

障害の程度が軽ければ学びやスポーツ、交流等あるが、うちは重度なので、親（自分）の不担が大きい。なので外出はなかなかないのが現状です。

病気のため、病院生活をおくって、学校にいます。センターでは、育成科の先生たちが子供のよろこぶことをしてくれています。卒業したあとも、病院生活になると思いますが、その中で、体調をいじして、好きなことができるかんきょうであってほしいです。

理解が必要だと思います。

計画したり 参加 よびかけ 告知したりしてほしい。

自分達で出掛けるのは大変なので、相手側（教えて下さる方）から出向いて頂いて、ご指導して欲しいと思います。

生涯学習を妨げる段階の段差とかを無くして、多目的トイレを増やして、障害がある人でも、有意義に不安を抱えずに学習することが出来る場があってほしい。妨げがあってはならない。

付き添いが一緒になければならぬけど、体力的に一緒にできないこともあり、あきらめることがある。そういう時に手助けしてもらえるといいのですが・

受け入れ側に、障害のある方が常駐して、できるだけ不安が少ない環境であってほしいと思います。

学校時代に得意なことがわかって指導してくれる人が卒業後はいず、才能をのばすことができない。

私の子は女の子なので障害者用の裁縫教室（簡単な教で良い）や、料理教室、メイクアップ講座などがあれば良いかと思っています。

ピアノ、ジム、専門学校。行きたい

5-⑪の後にも書いたが、生涯学習へ参加できるほどの本人の認知もなく、第三者が介入しての参加しか考えられない方たちはどのようにすればいいの。このようなアンケートや質問がくるたびに自分の子供と他の子供をくらべてしまうことが苦痛になる。自分の意思で選択、活動できることの人との差を感じてしまう。

障がいの程度にもよると思いますが、卒業してから「さあ、何をやりたいの？」となっても、親も本人もわからない・・・となると思います。まずは障がいのある、なしに関わらず子供の時からやってみたいこと、やらせてみたいことをできる社会であれば、わざわざ生涯学習などとうたわなくても、何か、自分の人生を支える何かが見付かるのではないのでしょうか。障がい児を育てること、一緒にくらすことはとても幸せなことと心から思っていますが、時々逃げ出したいことも現実としてありますので、家族も楽しめる形だったり、家族の負担も多くない形になると「生涯」とうたうにふさわしい形になるのではないかと思います。

⑦ 記述

<p>どのような学びの場が、いつどこで行われているのかの情報を得ることが困難。学校を通してでも情報提供してほしい</p>
<p>もっと学べる場所が多くあり、情報等やホームページや小冊子的な物があれば、学ぶ機会が増えたり、参加の機会が増えると思います。</p>
<p>相当な勇気がなければ、障がいの第一歩をふみ出すきっかけが必要。慣れるまで本人も家族も相当辛い思いをする。理解してもらうには時間がかかる。子供はざんこくです。</p>
<p>学習塾やスポーツ教室などを障害を理由に断られたことがあり、以来障害者を対象としたイベントにしに行きづらくなっている。障害があっても学びたいことを学べる場が増えるとありがたいと思う。</p>
<p>わかり合える仲間が少なく一般の人もやはり特別な目で見ると障がいのある人は孤立してしまう。</p>
<p>いろいろな事に関心を持ちますが長続きしません。初めての場所、参加者達とのコミュニケーションがうまく築けない様子です。どんな場所、サークルであればうまくやっていけるのか自信がなく、すすめる事がむずかしく思っています。</p>
<p>親がやらせたいと思っても、団体だと障害が重いと輪を乱すし、個別だと費用がかかる。リハビリ的なことをしたくても、なかなかできない（音楽療育、言語療法）、枠もない</p>
<p>支援学校での部活の日数、時間が少ないので、体を動かす機会をつくってほしい</p>
<p>学校を卒業してしまうと学習（運動や文化的な事）の機会が極端に減ってしまう事が想像できます・・・。本人が魅力を感じる活動が増え（あり）、継続してできればと思います。</p>
<p>障害によって家族が付添いしなければならぬ事が多いので、習い事に出すのが難しい。学習の場がある時は市町村の広報にでも載せていただきたい。</p>
<p>生涯学習の場はないに等しいと感じる。自分で探して行っている状況。</p>
<p>機会があれば学校在学中のうちから始めたいと思っていくくらいです。面白いアート作品が見られたと思う・・・。</p>
<p>障害者も一般の方と同じ皆さんで集まる所から始まり、家にばかりいる事なくどんどん外出する。興味のある事に対しては誰しも集うもの。体を動かせる場所、笑う場所・機会をあたえて下さい。</p>
<p>ねたきりで自分から体を動かすことがむずかしいですが、何かを感じたり楽しんだりすることができるのであれば知りたいです。</p>
<p>中高生を対象とした生涯学習があると、仲間づくりもできるのではないかと思います。</p>
<p>好きな事や得意な事を持つ事で、自信をもってすごす事ができたり、精神面での安定にもつながると思います。いろいろな学びの場があるとよいと思います。</p>
<p>余暇の過ごし方がとても重要だと思います。好きなことや興味のあることだと続けられると思うので、そういった活動の場があれば参加したいと思います。</p>
<p>学校以外で学べる事が沢山あると思うので、機会をみながら生涯学習やその他行事、ボランティアに参加してほしいと思っています。</p>
<p>多動な障害者でも安心して安全に居られる場所を提供して過ごさせてほしいと思います。</p>
<p>親が情報不足で何をどうしたらよいのか分からない</p>
<p>生涯学習はとてもよいことだと思います。しかし、軽度の方ならできることもたくさんあるでしょうが、重度だと、受け入れてもらえる所もないのではないですか？ましてや、吸引を必要としたり、ケアの必要な障害がある人など、やりたくてもできない、受け入れも無理なのではないですか？今後に期待します。</p>
<p>去年は参加することが無かったが、継続してもらえたら、ぜひ参加したいと思っている。</p>
<p>障害の程度（知的）のため、様々な体験をさせたいと思っても、参加したときに手助けをしてくれる人いる体制がないと参加できない。</p>
<p>障害のない人がある人を理解することはなかなかできないと思う。一緒に！！は無理かと。理解しようと思う方がたくさん時間を過ごしていけばいくらかは分かってくれるのかな？一緒にスポーツ！！とか簡単にできるものなのかな？障害のある方は迷惑をかけてしまうことを気にしてしまうかも。ない人は上から目線で接しないだろうか？障害者を「特別な人」ではなく「個人の特徴」と思ってくれば偏見の目で見られないよね。色々考えてくださりありがたいです。ほんとと感謝感謝です。</p>
<p>今は学校の活動を通して学べる機会（地域交流等）はたくさんあるが、学校以外ではあまりないので、卒業後そういった機会が減ってしまうと不安です。</p>
<p>学習そのものより仲間と一緒に学ぶ、楽しむことができればよいと思う</p>
<p>もっと周りの人の理解がほしい。生涯学習ができる場所を増やしてほしい。情報が少ないので情報提供してほしい。</p>
<p>重度の子にとって習い事や講座などは難しいので、スポーツやレクリエーション活動を通して余暇を楽しむ場がほしい。</p>
<p>もっと分かりやすく情報を得る事ができるようにして欲しい。広く情報発信をして欲しい。</p>
<p>情報が少なすぎる。学校からでしかなく、もっとほしい。</p>
<p>学校からの情報が、一番分かりやすいと思うので、学校を介して、習い事の出来る場所・集まりなどいろいろ教えて欲しいです。</p>
<p>福祉型カレッジの設立 学べる場所やサークル</p>
<p>手話の検定を受けたいと言っていましたが、習う手段がなく現在はやる気をなくしています。また検定を受けるには仙台まで行かなければいけないとの事で、交通費がかかり不便さを感じました。</p>
<p>一番は受け入れる側の理解だと思います。各個人の特性を理解して向き合ってもらえるかがこちらの不安要素になります。</p>
<p>情報がない</p>

⑦ 記述

習い事をしたくても、そこに行くまでの手段が無くあきらめている人もいると思う。その辺りの整備も進むと良いと思います。障害のある人は収入も少ないので、費用の面でも助けてもらえると思うと良いと思います。

情報が少なすぎる。

障害のない方たちと一緒に遊びたい。

時々、スポーツなどの体験的なイベントはあるが、障害の程度によって参加の可否も違うし、どの程度の障害向けなのかもはっきりせず、なかなか参加とはいかないのが難しいと思う。

学びたいという意欲があれば、親としてはできるかぎり好きなことに（学ぶことにつながる）とことんうちこませたいです。親も一緒に学んで楽しいです。この子のやりたいことをやらせてあげ、母も自分の趣味を生涯続けてゆくつもり。

学べる場所が欲しい。福祉型カレッジを秋田県にほしい。

学習障害がある人に対して講座や教室が増えてほしい。家庭内でおしえていくのには難しい時がある（正確な学習内容なのかわからない）／一般の学習教室のようなところでは、年齢や学年の壁があって入りにくい

ため
生涯なので、障害者が高齢になった時の支援があればいいと思います。

様々な公共の施設が、中央地区以外にも、県北・県南地区にもたくさんあるといいと思います（公民館やセンターなどの場所）

好きな時間に利用できる施設や集まりがあればよい。決められた曜日・時間では、親が就業している（不定休）ため通うことができない。

それぞれの障害にあった生涯学習の場があればいいと思いますが、それに伴った支援・サポートも必要になるし、家族の負担が増えるとなると大変だと思います。

カルチャースクールに通わせたいのですが、受け入れる方はどうなのか。親がついていくのもどんなものか。県や市でも障がいのある人のための習い事等をやってくれるとうれしい。

共生社会の実現に向けて、インクルーシブ教育システムの構築と支援体制の整備が少しでも前に進めばいいと思っています。

できれば同年代での集まりなどがあればいい。娘はもうすぐ19歳なので、18歳～25歳までの集まりとか、障害者の能力にあわせたレベル別の習い事等。

障がいを理解してもらいたいのので、障がいがある人となない人がいっしょに活動する場がほしい。

今、入所しているが、入所してしまうと生涯学習の機会を奪われてしまう。小さい時から積み上げてきた物がゼロになってしまう。どんな場所、状態でも継続できる機会が必要だと思う。親なき後も、重い障害があっても生涯学習は必要だと考える。

卓球を小学生からずっと続けているが、障害児の参加できる卓球（教室やクラブ等でもよいが）の場がほとんどなく、活動する場があれば、親として本当にありがたい。本人のモチベーションにつながり、生活リズムが整うため。福祉の一環として作ってほしい。

障害といっても人様々です。その人に合ったものを本人の意思でやれば良いと思います。市内以外の方は、あまり機会がないのではないのでしょうか。

今は学校生活で体力的にいっぱいなので生涯学習については考えていない。将来、社会人となり時間に余裕ができたときに、本人と話し合っただけで済ませたいと思う。

秋田市にはあるかもしれないが、他の市町村には障害のある人が行ける場所がない。まして生涯学習はほぼありません。あれば利用したいです。以前は県立プールのミラクルスイミーに通いましたが、送迎、つきそい、金額が大変でやめました。

アンケート用紙に全てルビをしていることが差別化していると思う。やめてほしい。

親の交流もできるので多くの場をつくっていただければありがたいです。

障害の重い方々は本人もその家族も本当に大変だと思います。その他に少しだけ考えていただきたい。軽度の障害だと周囲には「怠けている」「空気が読めない」等と誤解され、普通学校の生徒と馴染めません。障害者のサークルに参加すると、先生方は重度も軽度もしっかりサポートしてくれますが、ボランティアや施設職員の方からは軽度だと白い目で見られている感じがしました。軽度でも悩みはあるのです。軽度でも安心して参加できるサークルにしてほしいです。

障害者が勉強やスポーツを通して交流できる場があると嬉しいです。習い事もどんなものがあるのか知りたいです。

パソコン学習や職業体験などがあればよいと思います。

障害者向けの生涯学習がどこでやっているのか、あまり情報が入ってこない。保護者に向けた講演会や学習会はいくつか聞いたことがあり、参加したこともあるが…。本人たちの参加する・できるイベントや情報が分かるようにしてほしい。

祭日がないため、土日の活動はつらいことがある。

スポーツサークル（簡単な運動、体操、トランポリン等）等子どもが体を動かせる機会をずっと探しているが見つかっていません。土、日でどうかよろしくお願いします。

学校以外での他者とのかわりには非常に大切であると考えています。いろいろな活動に参加していますが、保護者の理解とボランティアの参加がとても大事だと思っています。とくに、ボランティアの育成は必要であると思います。

参加する・しないとは別に、情報だけは障がい者（児）や家族はほしいと思う。

漢字検定を受験したいが、付き添わないと一人では受験会場に行けないので出身中学校での受験ができると思うのですが、可能になればうれしいです。

⑦ 記述

○生涯学習の機会を考えてほしい。○また、「障害者差別解消法」が施行されたとは言え、世の中は難しい所もあります。共に生きるために、色々な行事、習い事に安心して参加できるように認め合いが必要なのです。

障害者が参加できるイベント・習い事教室などが、たくさん増えてほしい。

勉強や習い事でゆうのはないですが 将来誰か（どこかを）頼らないといけないと思うので そういう係の人たちと知り合いになれたらいいなと思います。毎日の生活にがんばっていてストレス発散できる事がいろいろあればいいなと思います

都会では、沢山学べる事が、ここでは出来ない。親が時間をさいて、何時間もかけていかなければならない。

親子で楽しめる行事等があればいいなと思います。アンケートもう少しわかりやすい文章にして欲しいです。

グレーゾーンの子供たちの学びの場が少ない。支援学校はあるが、グレーゾーンの子供たちの学習レベルにあった学習内容ではないように感じる。地域の偏見がまだまだ多く、学びたくても学べないのではないかと思う。

まだまだ数が少なく、希望通りに利用出来ないです

指導してくれる所がない、又指導者もいない

絵画や楽器、スポーツ 何でも挑戦させたいと思ってはいるものの、どこで受け入れ可能か、近くにあるのか等の情報がわからない。やっとみつけたと思えば大人の障がい者ですすでに定員オーバーとか…。情報がほしい。一般のところへ問い合わせるのは勇気もいるし疲れてしまいます。

とにかく子供の意見を聞いて、準備してやらせてみる。その後は、よく様子を見て、一緒に楽しめるように、行動する。

障害だって免許をあってもいいですが、それなりのレベルの試験だったらすぐにとれると思うのですが、勉強して、理解しても、寝てしまうと忘れてしまうので、障害のための試験場があってもいいと思うのですが、学校ったら先生が教えてくれましたがやっぱり家だとかかりられていますので、そういう場を作って欲しいですね。（車の免許です。）

対象者エリアだけでなく広範囲で広報をお知らせして頂ければ良いと思います。

○思い切り体を動かす機会（場所、イベント、活動団体）や情報など乏しく感じる。

学校を卒業しても、学校のように卒業した子供たちが、安心して、過ごせる場所があればなと思います。障害をもっている子供の親は、皆そう思っていると思います。障害は学校生活の6年間だけではなくその後もずっと続くのですから理解のある環境は必要だと思えます。

入所施設での外出は、年1回の社会見学のみなので、施設の負担にならないような、他者が外出を計画・実施してくれるような事業があると良いと思います。学校に在学中とちがい、人とかかわる機会とか、外出する機会がほとんど無いので、何かしらの行事があると良いと思います。

人とふれ合うのが好きなので、色々経験させたいと思う。

公共の乗り物で行ける所か目的地までの移動のサポートが必要。詳しい案内が家に届くようにしてほしい。

会費や募金などの親負担をなくしてほしいです。次々にお金がかからみ、大変です。

公共の場所や個人的な場所に関係なくどんな障害がある人も利用できる場所がほしい。

障害者は、あくまでも障害者という感じは、まだまだあり限られた世界の理解でしか、親としては参加させることが出来ない状況が残念と思う

運転免許取得のための支援があれば知りたい。

学びの機会に連れ出したいと思うが、健常者の方が多くとさまたげになるのではないかな。訓練では全て学びきることはできないだろうからやめよう、といった気持ちがあり参加できない。

「あまりない」が多くなったのは、やりたいことがあって調べれば必要な情報や機会はありますが、先に情報があって選択できる環境であれば、本人も家族も充実した生活ができるのでは…と思います。学校と卒業してから社会に出た分、世界が（生活の）せまくなったと感じていました。

障害者のために、というよりは、スポーツクラブや、習いごとの場で、健常者だけでなく障害者もうけいれてほしいと思います。又、湯沢、大仙ではS Oが立ちあがってますが、横手には施設はあっても、そのような場がないように思います。

やりたい気持ちはあるが、情報がなくどうしたらいいのかわかりません。機会があれば積極的に参加しようと思います。

経験の中で学びたいと思える学校教育であって欲しいと思います。

障害の度合いにより区別される事に辟易している。出来る事しかさせてもらえない。それゆえ家族対応ならざるを得ない。そのような面がフリーになればいいなと感じている。

障害の無い方の認知が必要。合理的配慮、特別支援という言葉を使わず、当たり前障害者と向かえる社会を築くことが出来れば一と思う。

特にない

障害のあるなし関係なく一緒に学ぶ場をもっと教えて発信してほしい

スポーツや美術はよく目にするけれど、音楽になるとほとんど聞いたことがない。集計して終わりではなく、何かしらの活動に役立つアンケートであってほしい。

選べるくらい多様な何かがあれば良いと思いますが その点では全くありません

実態を理解してもらえらる場で体を動かしたりストレスを発散できることができたらと願っています。

⑦ 記述

地域で、身体的障がい者、知的障がい者のニーズを調査し、それぞれ共通する学習と、個別にする学習を実施すべきでは？

本人が外出先での自分に対する人の目を気にするので、決まった場所への外出になる。もっと外に目をむけて…と思っても本人が嫌がる。外でのスポーツも難しい。

県や市町村、学校などと協力して、いろいろなイベントを開催して欲しい。（障がい者が来れるよう、保育やボランティアをつけてくれたらいいと思う。）

学校と協力して県、市町村と共に、イベントなどを開催して欲しい。（音楽などの参加しやすいもの）

車椅子利用者に対しての支援が不足していると思う。窓口をもっと広げてもらいたい。

法が施行されたが、学びの場の情報提供がない。何で情報を得ることができるのか不明。

施設の中でも、できる体制にしてほしいです。

家の子供は、学校の部活以外でも自転車で出かけたりもしています。小学校の時は、プールにも行きましたが、必ずじゃないですがなかなか今は、親も時間が取れず、色々な事に参加出来ない感じです。車の免許とかの学習が出来る所があればいいかと思えます。家はこれからですが色々他の子と同じスピード感でついていけるか心配はあります。

障害の程度によって、補償はあると思いますが、補償を受ける程ではない人の場合は、なかなか、本人がやりたいと思っても背中を押す事が出来ないのが、申し訳なく思えます。無料の学習の場が増えて、仕事につながればいいと思えます。

情報を知りたいと思っても相談する場所がわからない

一人で遠慮なく通える所があってほしい

田舎なので参加させたくても交通の便が悪く、いろいろ、諦めたりする事が多いです。もっと地域ごとに、参加しやすいのがあると良いのですが…

これといった考えは、ありません

一人では通うことができない不自由さがある

時間、日にちななど選べる習い事があれば…と思うことはありました。学校から帰ってからの夕方～夜や土・日など

学校以外での学習の場…初めて聞きました。障かひのある人のみか参加できる場なのでしょか？あまり良くわかりません…。共に生きる社会を目指すのであれば、障かひのない方の差別意識を少しでもなくす取組みもしていただければ嬉しいです。

健康のために、運動をさせたいが本人がやりたがらない。親も一緒にいきたいが、なかなかむずかしい。

陸上やバスケットなど学校でやってきたことを社会人になってからも続けたいと意志は強いが、いつ・どこで大会が行うのかなど申し込みの仕方についても情報がなく、参加できないで残念な思いをしている。

障害に応じて、その人の興味やペースに合わせた自由な雰囲気施設の施設が身近であればいいかと思うときはあります。

1ヶ月に2回ほど身体を動かせる機会があれば良いと思えます。

■「生涯学習の経験」に関する分析

○在籍状況別

全国平均と比べ、比較的取り組む割合に近いのは「健康の維持・増進、スポーツ活動」であり、全国平均 30.3%と比べ、秋田県では 23.3%となっている。また、「特になし」は全国平均 38.8%に対し、秋田県では 50.1%と大きく上回っている。それに対し、他の項目は「その他」を除き、いずれも全国平均から 10 ポイント前後低くなっており、特に「文化芸術活動」は－ 17 ポイントと大幅に低い。「高校で学んだ内容の維持・再学習」については、秋田県の場合、高等部在籍生は 16.2%に対し、卒業生は 7.7%と低い。一方、「余暇・レクリエーション活動」は高等部在籍生 17.5%に対して卒業生は 30.3%となっており、在籍時学習活動に充てていた時間を余暇・レクリエーション活動に振り分けていると考えられる。「社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」「職業生活に関わる学習」等、社会の中でよりよく生きるための学習への取組は卒業生の方が積極的である。

○地区別

地区によって取組に差が見られる。各分野における平均に比べ、取り組む割合が高い市町村は次の通り。県北（大館・鹿角・小坂）：「職業生活に関わる学習」、能代山本（能代・藤里・三種・八峰）：「余暇・レクリエーション活動」、北秋田（北秋田・上小阿仁）：「個人の生活／社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」、中央（秋田市等）：「健康の維持・増進、スポーツ活動」、大曲仙北（大仙・仙北・美郷）：「文化芸術活動」、横手：「余暇・レクリエーション活動」「仲間づくり・人間関係等に関する学習」、湯沢雄勝（湯沢・羽後・東成瀬）：「学校で学んだ内容の維持・再学習」「健康の維持・増進、スポーツ活動」。由利本荘にかほにおいては、各回答分野のいずれにおいても取り組む割合が高くない。県北地区・中央地区・県南地区で見ると、県南地区が全体として生涯学習に取り組む割合が高い。各地域における障害者団体の取組に左右される傾向があるように考えられる。

○障害者手帳別

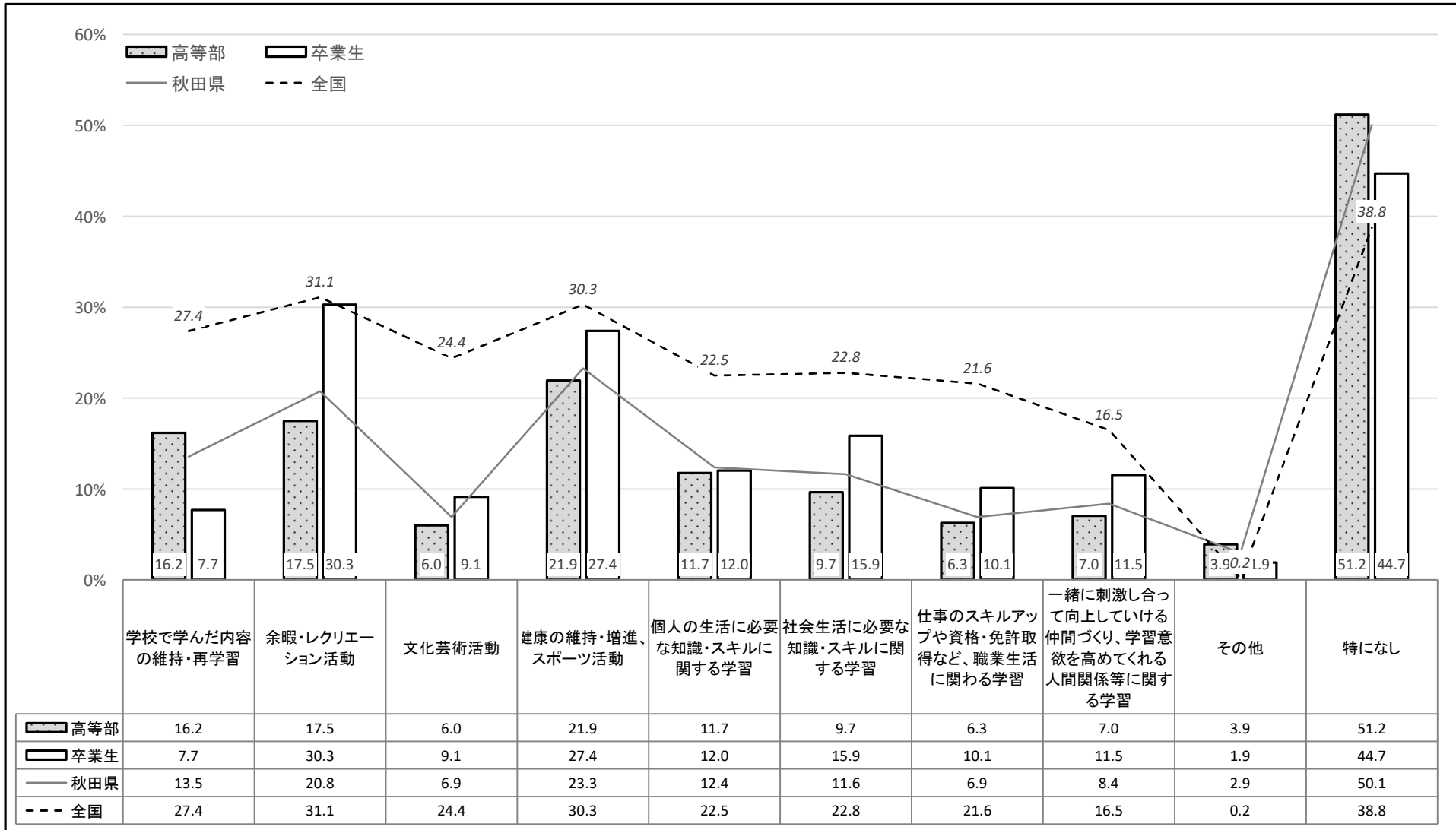
身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等の手帳所有別で見た場合、生涯学習に取り組む割合が一番高いのは療育手帳所有者である。次に割合が高いのが精神障害者保健福祉手帳所有者、一番割合が低いのは身体障害者手帳所有者である。身体障害者手帳所有者の生涯学習経験は全般的に低く、特に「文化芸術活動」「健康の維持・増進、スポーツ活動」「個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習」の割合が低い。視覚・聴覚障害や肢体不自由等、学習を行う場所へ行くことに困難を感じるのが原因の一つと考えられる。一方、精神障害者保健福祉手帳所有者は、「学校で学んだ内容の維持・再学習」や「余暇・レクリエーション活動」では参加割合が最も高いが、「社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」「職業生活に関わる学習」「仲間づくり、人間関係等に関する学習」への参加割合が低い。

●「生涯学習の経験」全体分析

秋田県の場合、全国と比べて「生涯学習の経験」に回答している割合＝少しでも生涯学習を継続している割合が全体的に低い。個別の質問項目では、「余暇・レクリエーション活動」「健康の維持・増進、スポーツ活動」に取り組む割合が高く、「文化芸術活動」「個人の生活／社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」「職業生活に関わる学習」「仲間づくり、人間関係に関する学習」に取り組む割合が低い。これらの割合は、県内各地域における障害者支援等を行う取組の動向にも左右されると考えられる。また、身体障害者手帳の所有者は他の手帳所有者と比べると生涯学習に取り組む割合が低い。結論として、学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等に取り組もうとする個人の意識や、それらに取り組みやすくするための社会の仕組み・枠組みが十分ではないと考えられる。

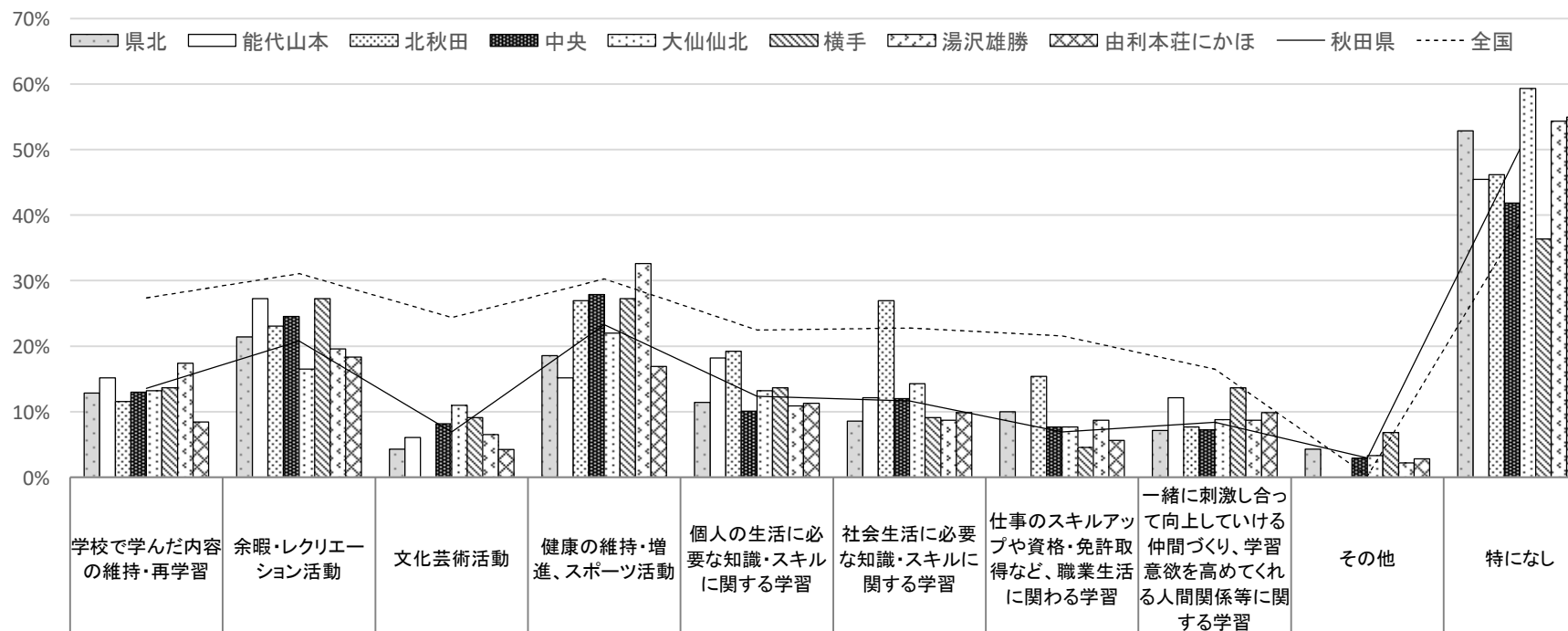
■生涯学習の経験(在籍状況別)

お父さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)で続けていることは何ですか。(複数回答可)



生涯学習の経験(地区別)

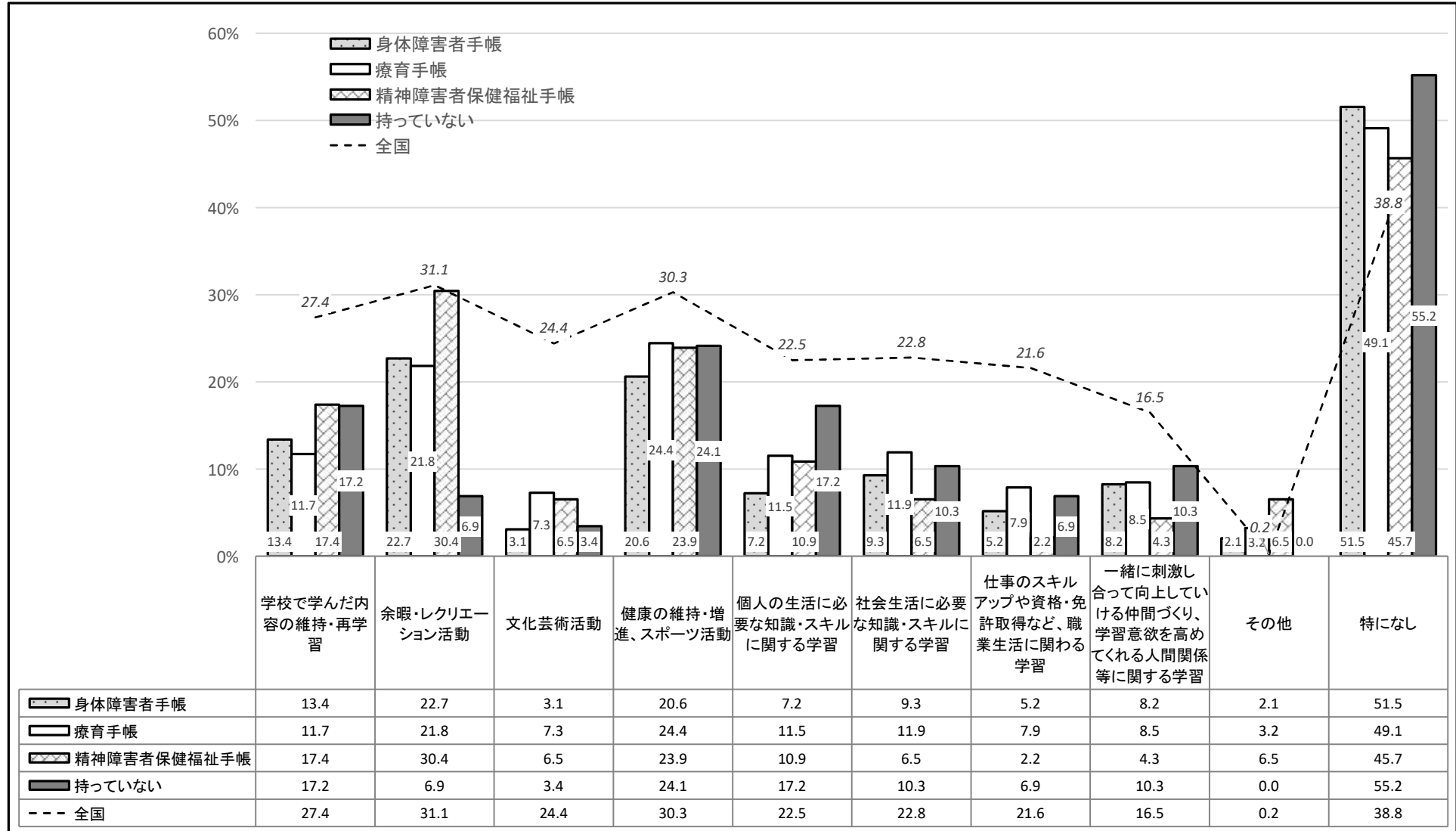
お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)で続けていることは何ですか。(複数回答可)



	学校で学んだ内容の維持・再学習	余暇・レクリエーション活動	文化芸術活動	健康の維持・増進、スポーツ活動	個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習	社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習	一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係等に関する学習	その他	特になし
県北	12.9	21.4	4.3	18.6	11.4	8.6	10.0	7.1	4.3	52.9
能代山本	15.2	27.3	6.1	15.2	18.2	12.1	0.0	12.1	0.0	45.5
北秋田	11.5	23.1	0.0	26.9	19.2	26.9	15.4	7.7	0.0	46.2
中央	13.0	24.5	8.2	27.9	10.1	12.0	7.7	7.2	2.9	41.8
大仙仙北	13.2	16.5	11.0	22.0	13.2	14.3	7.7	8.8	3.3	59.3
横手	13.6	27.3	9.1	27.3	13.6	9.1	4.5	13.6	6.8	36.4
湯沢雄勝	17.4	19.6	6.5	32.6	10.9	8.7	8.7	8.7	2.2	54.3
由利本荘にかほ	8.5	18.3	4.2	16.9	11.3	9.9	5.6	9.9	2.8	54.9
秋田県	13.5	20.8	6.9	23.3	12.4	11.6	6.9	8.4	2.9	50.1
全国	27.4	31.1	24.4	30.3	22.5	22.8	21.6	16.5	0.2	38.8

■生涯学習の経験(障害者手帳別)

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)で続けていることは何ですか。(複数回答可)



■「生涯学習を実施した理由」に関する分析

○在籍状況別

生涯学習を実施した理由として、高等部生・卒業生ともに、「様々な経験を通じて成長するため」「他の人と交流したり、友人を得るため」と回答した割合が高く、全国平均を大きく上回っている。一方、「地域や社会におけるボランティア活動などに生かすため」「教養を深めるため」と回答した割合は、全国平均においても低い。秋田県の場合、その割合は高等部・卒業生どちらもさらに低い。これらを含め見ていくと、生涯学習を続ける理由は大きくA群【自己成長・健康増進・交流・豊かな人生設計】とB群【生活課題解決・仕事の必要性・地域還元・教養の深化】とに分けられ、二極化が進んでいることがわかる。このような傾向から、①自己成長を望んではいるが、生涯学習と生活課題解決とが直結しない一方、②交流・つながりを求めるというニーズが強いことが伺える。

○地区別

生涯学習の実施理由について、全県の平均と比べ、差が大きいのが北秋田市であった。全県平均と比べて、「暮らしの中で生じる課題の解決を図るため」は20ポイント以上高く、一方「様々な経験を通して成長するため」は20ポイント以上低かった。北秋田市は他地区よりも、生活課題解決に結び付く生涯学習を展開していることが、数値として現れたのかもしれない。これに対し、地域間格差が少ない回答もあった。「教養を深めるため」は全県平均が15.9%と低く、地区別で見ても最大23.8%・最小12.1%と差はそれほど大きくなく、取組自体が少ないまま定着してしまっている状況が伺える。

○障害者手帳別

グラフを元に全県平均を計算し、各項目について全県平均との差を比較した。その結果、全県平均と比べて、「人生を豊かにするため」を選んだ身体障害者手帳所有者の割合が最も高く、「人生を豊かにするため」を選んだ手帳を所有しない者の割合が最も低かった。それぞれの質問内での、手帳所有者による割合の開きを見ると、「人生を豊かにするため」が24.6%と突出して多かった。これらのことから、生涯学習が豊かな人生設計に関係しているという捉え方が、手帳の有無によって異なることが伺える。

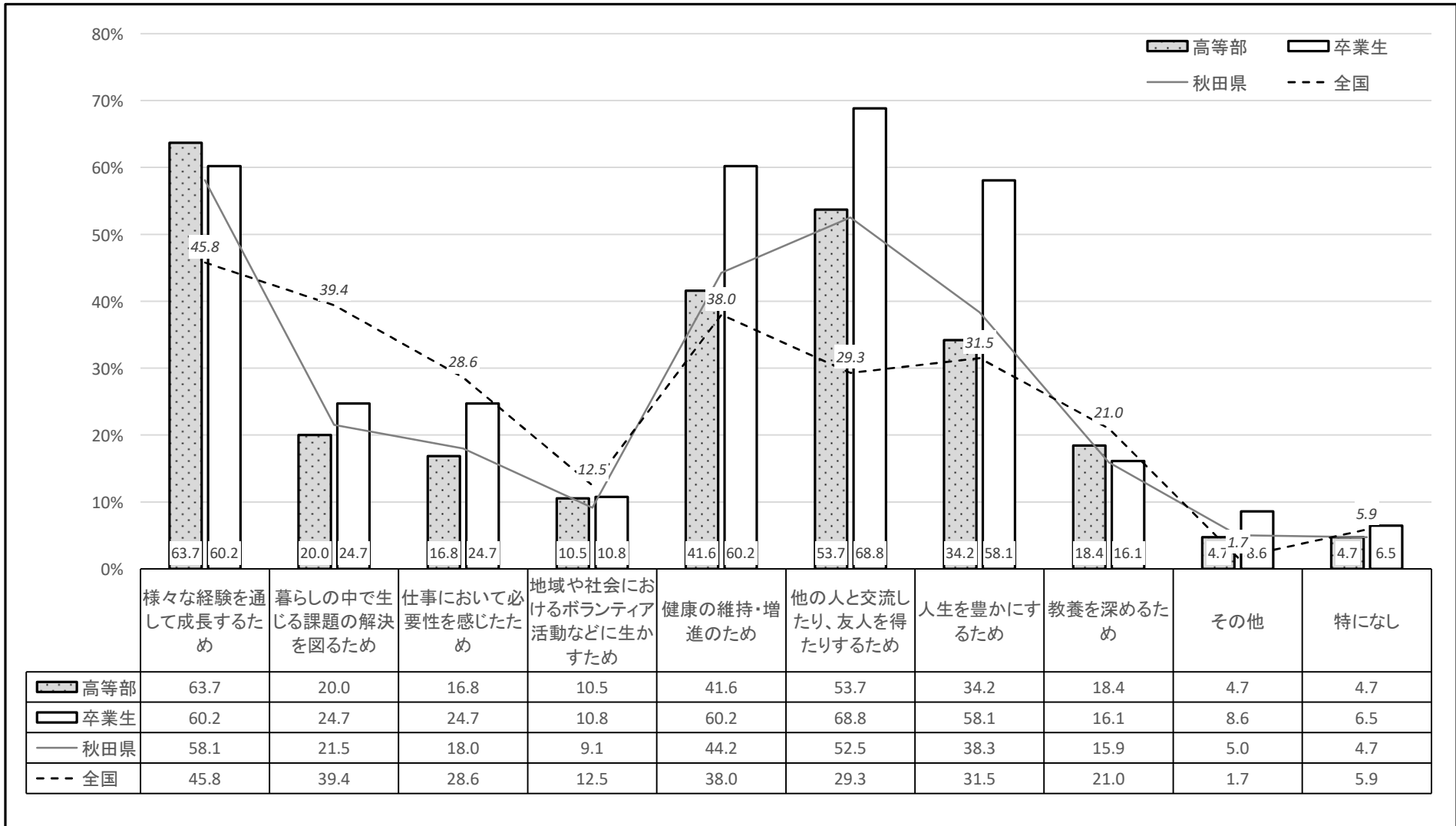
逆に差が小さいのは、「暮らしの中で生じる課題の解決を図るため」「仕事において必要性を感じたため」「地域や社会におけるボランティア活動などに生かすため」であった。つまり、これら3つの理由に関しては障害者手帳別・有無別であまり差異はないと考えられる。また、これら理由の平均値は共通して全国平均値より低いことから、手帳別・有無別に関係なく、これらを主とした生涯学習のニーズが低いと考えられる。

●「生涯学習を実施した理由」全体分析

高等部生・卒業生ともに生涯学習に自己成長を求める傾向がみられる。卒業生になると交流・健康増進・豊かな人生設計を求める傾向が強く、地域還元といった地域の一員として生涯学習を継続する意識は相対的に低い。地区別では格差がそれほど認められず、特に教養を理由とした場合それが顕著であった。障害者手帳別では、質問項目間でのばらつきが大きかったのは豊かな人生設計理由で、所有していない者の低さが際立った。逆に差が小さいのは生活課題解決・仕事の必要性・地域還元である。また、これらに共通しているのは平均値がいずれも全国平均値より低いことである。このように、各種別を問わず、生涯学習を他者との交流目的として高く求める一方で、生活に直面した課題や地域課題への解決に結び付けることに関しては、生涯学習に求めようとはしない傾向が伺えた。また全国値と比べるとこの二極化はさらに顕著であるといえる。

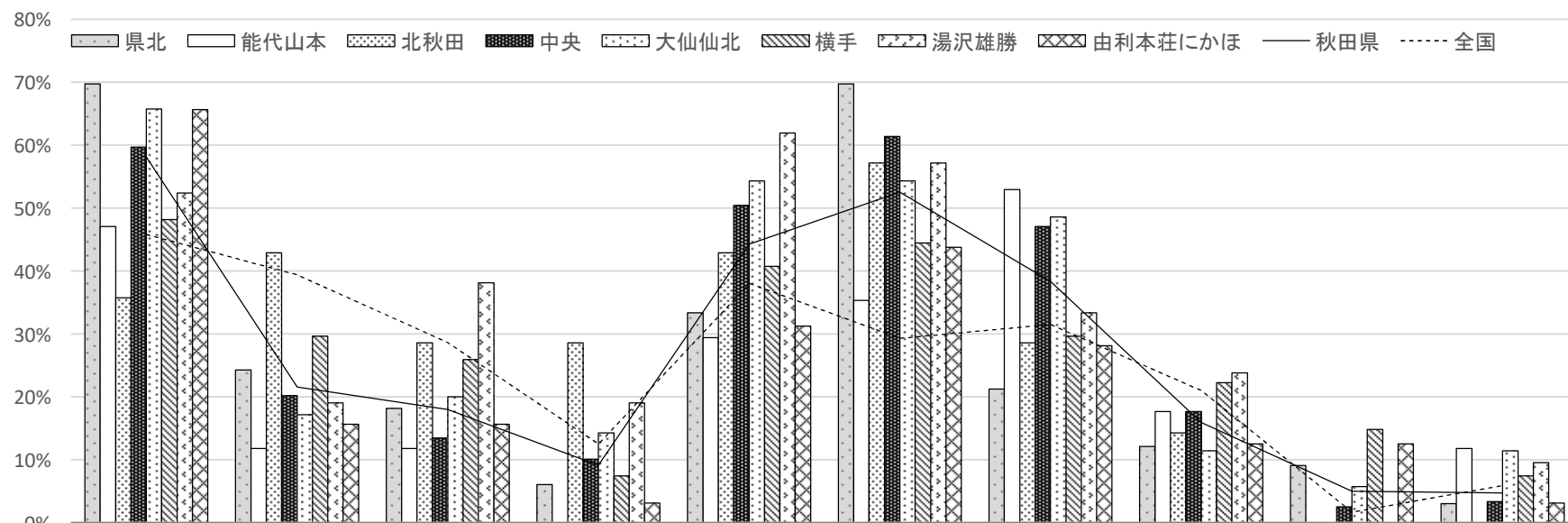
■生涯学習を実施した理由(在籍状況別)

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



生涯学習を実施した理由(地区別)

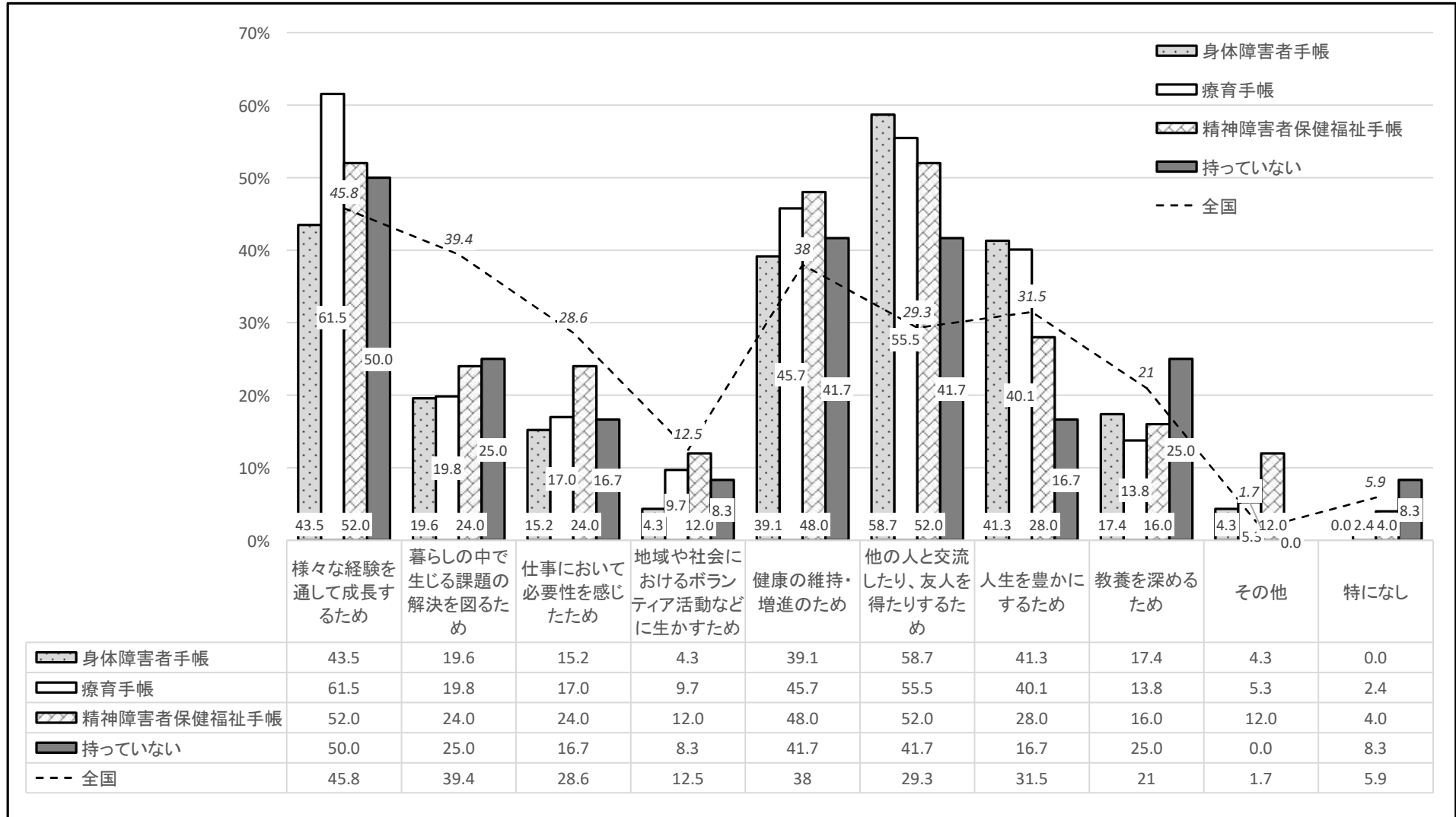
お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



	様々な経験を通して成長するため	暮らしの中で生じる課題の解決を図るため	仕事において必要性を感じたため	地域や社会におけるボランティア活動などに生かすため	健康の維持・増進のため	他の人と交流したり、友人を得たりするため	人生を豊かにするため	教養を深めるため	その他	特になし
県北	69.7	24.2	18.2	6.1	33.3	69.7	21.2	12.1	9.1	3.0
能代山本	47.1	11.8	11.8	0.0	29.4	35.3	52.9	17.6	0.0	11.8
北秋田	35.7	42.9	28.6	28.6	42.9	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0
中央	59.7	20.2	13.4	10.1	50.4	61.3	47.1	17.6	2.5	3.4
大仙仙北	65.7	17.1	20.0	14.3	54.3	54.3	48.6	11.4	5.7	11.4
横手	48.1	29.6	25.9	7.4	40.7	44.4	29.6	22.2	14.8	7.4
湯沢雄勝	52.4	19.0	38.1	19.0	61.9	57.1	33.3	23.8	0.0	9.5
由利本荘にかほ	65.6	15.6	15.6	3.1	31.3	43.8	28.1	12.5	12.5	3.1
秋田県	58.1	21.5	18.0	9.1	44.2	52.5	38.3	15.9	5.0	4.7
全国	45.8	39.4	28.6	12.5	38.0	29.3	31.5	21.0	1.7	5.9

■生涯学習を実施した理由(障害者手帳別)

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



■「学習形態」に関する分析

○在籍状況別

高等部生よりも卒業生が、多くの学習形態を選択して利用している割合が総じて高い。これは、卒業した後に学習機会の選択肢が拡大している状況を示している。しかし、その中で「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動」の割合が、高等部生よりも 33.8 ポイント高く、突出している。このように、卒業生にとっての生涯学習が障害福祉サービスの中で続けられる機会が多い現状は、障害者の生涯学習が障害福祉の中だけで実施（完結）されていると見ることもできる。

その反面で、高等部生では「自宅での学習活動」の割合が卒業生よりも 4.9 ポイント、「学校の講座や教室」の割合が 6.9 ポイント高くなっている。卒業後、より充実した学習を継続し、学習機会選択、学習形態選択の可能性を広げるためには、在学中に多くの学習機会を体験しておくことも有効である。そのために社会教育が果たす役割は大きい。

○地区別

県北地域と県南地域において、「自分の学校や同窓会組織等が主催する学びの場」を活用している割合に大きな差がある。同窓会活動の頻度や内容に違いがあるのだろうか。学校における卒業後の学習機会確保のケアという観点からも興味深い。

県央地域において、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」を活用している割合が突出して高い。これは、他の地域と比べて、秋田市におけるカルチャーセンターやスポーツクラブの設置数が多いためと思われる。その反面で、県央地域では「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動」を利用する割合が低い。

当然ながら、環境によって生涯学習の機会選択が影響を受ける端緒な例であると言える。大仙仙北・横手地域において、「図書館・博物館・美術館」を利用している割合が高いが、これについても同様のことが推察される。

○障害者手帳別

全体的に「自宅での学習活動」「テレビやラジオ」「インターネット」を利用して生涯学習に取り組む割合が高くなっているが、その中でも「身体障害者手帳」を所有している者の利用割合は、「自宅での学習活動」33.3 % 「テレビやラジオ」35.6 % 「インターネット」37.8 % と特に高くなっている。これは、便利なツールを積極的に利用しての結果であるのか、移動の困難さゆえに外出を控えている状況を示した結果であるのかは、別の検証が必要である。

それ以外では、「精神障害者保健福祉手帳」を所有している者の「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」を利用して生涯学習に取り組む割合が、32.0 % と突出して高い。精神障害は周囲から見えにくい障害であるため、カルチャーセンターやスポーツクラブを健常者と同じように利用しやすいことと、比較的外出しやすい者が多いという背景が影響していると推測できる。

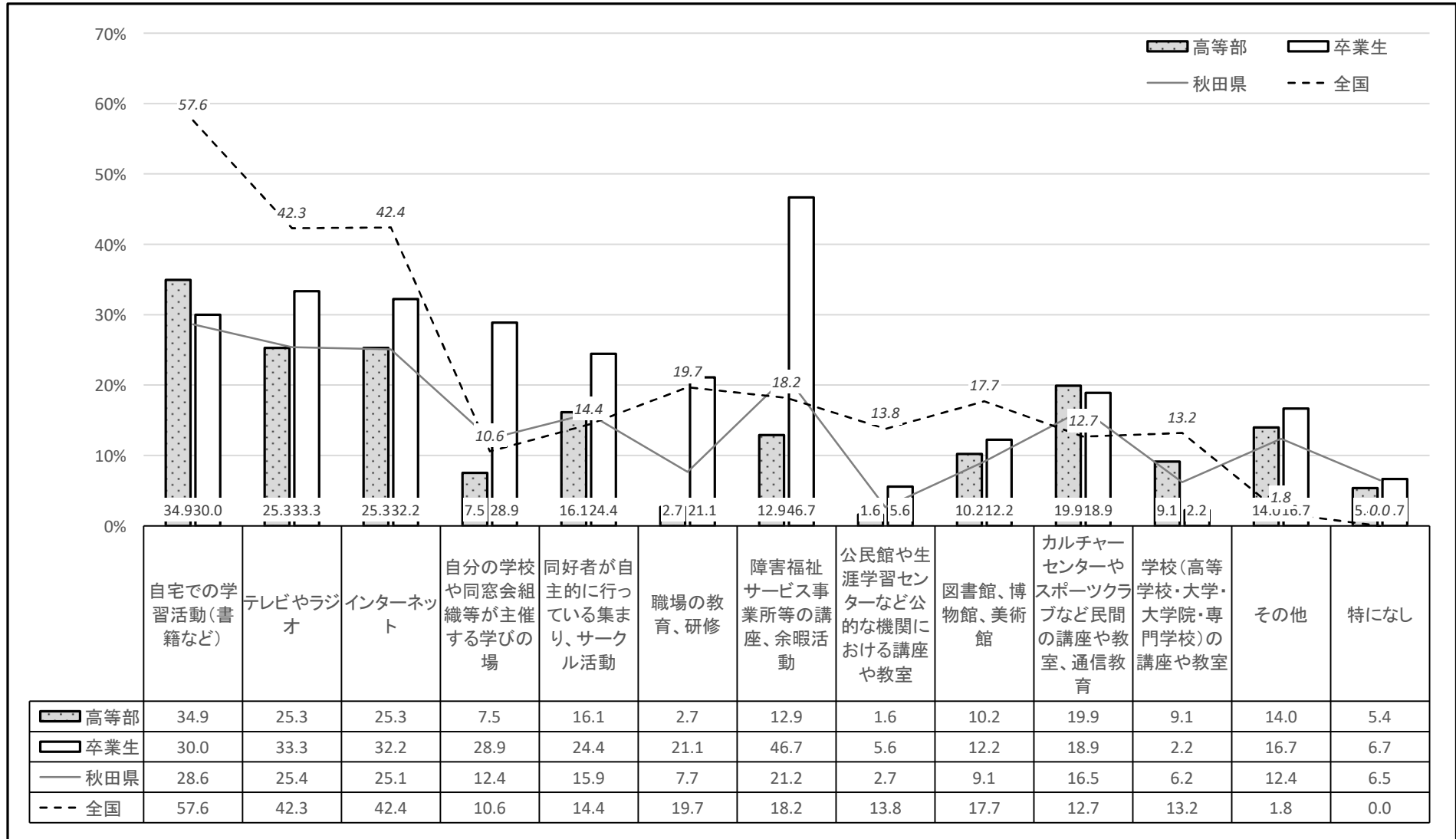
●「学習形態」全体分析

多くの学習形態において、その選択に全国平均と大きな差がない中、秋田県では「テレビやラジオ」で 16.9 ポイント、「インターネット」で 17.3 ポイント低い割合であった。それと連動するかのようになら「自宅での学習活動」が 29.0 ポイント低い割合になっている。昨今の社会情勢を考えると、「自宅にいながら」という視点が重要になり、秋田県でも今後増加することが見込まれるが、これは同時に障害程度の重い方の生涯学習の充実にもつながることが期待できる。その一方で、外出することによって学習機会選択、学習形態選択の可能性が広がるという観点からは、行動援護や同行援護、移動支援の充実が課題であると考えられる。

また、回答中で最も低い割合だった学習形態は「公民館や生涯学習センターなど、公的な機関における講座や教室」2.7 % であった。これは、全国平均の 13.8 % と比べても明らかに低い割合である。「障害者の生涯学習」が、身近な公的サービスとなっていない状況が示されている。

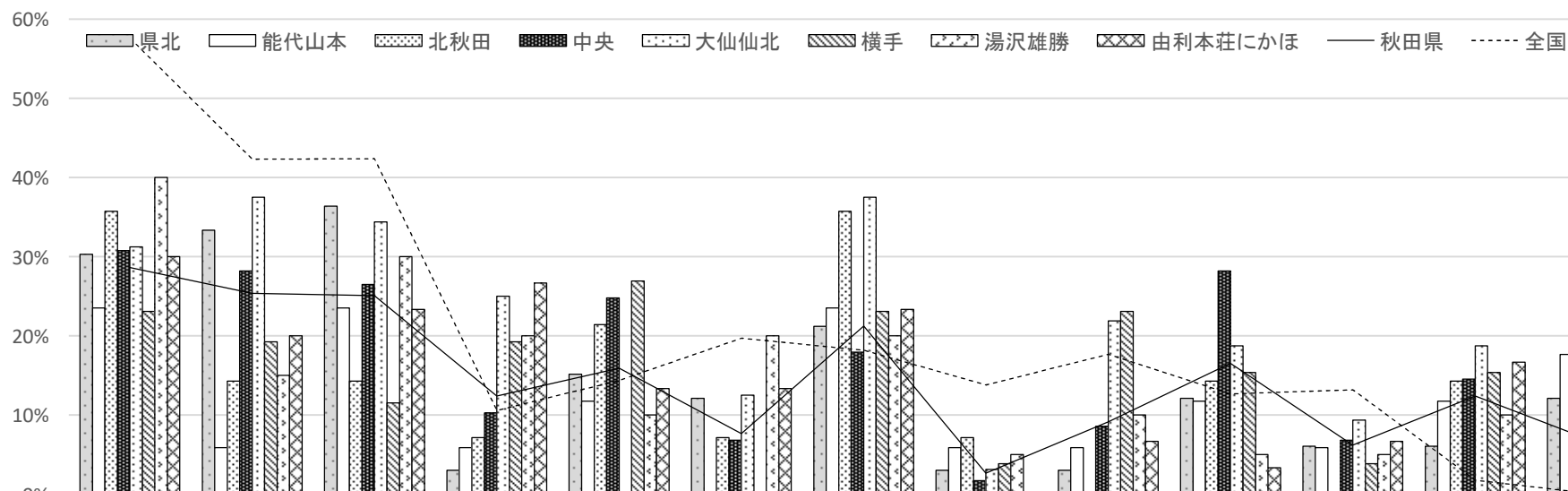
■学習形態(在籍状況別)

お子さんは、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



■ 学習形態(地区別)

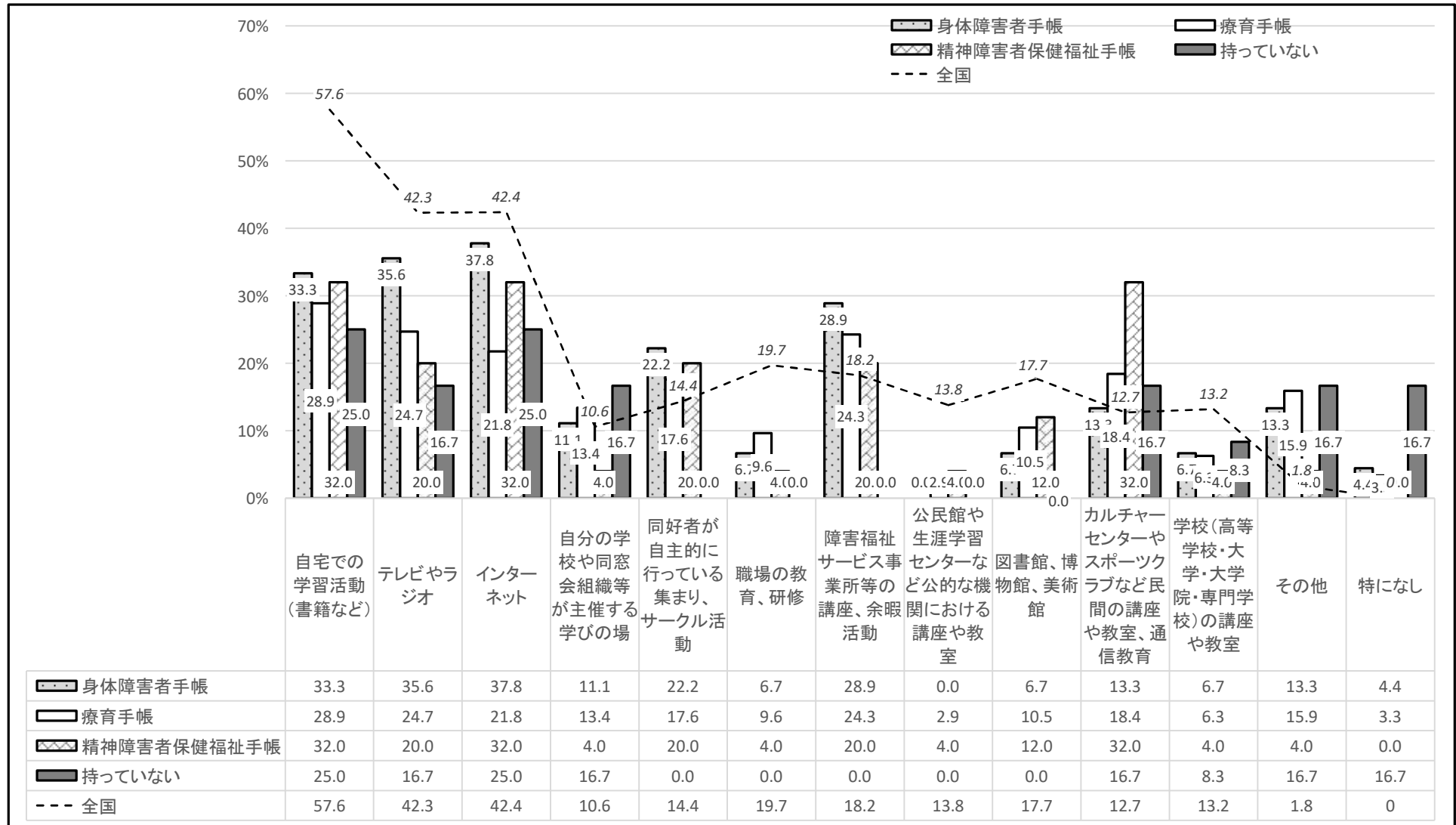
お子さんは、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



	自宅での学習活動(書籍など)	テレビやラジオ	インターネット	自分の学校や同窓会組織等が主催する学びの場	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	職場の教育、研修	障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動	公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室	図書館、博物館、美術館	カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育	学校(高等学校・大学・大学院・専門学校)の講座や教室	その他	特になし
■ 県北	30.3	33.3	36.4	3.0	15.2	12.1	21.2	3.0	3.0	12.1	6.1	6.1	12.1
□ 能代山本	23.5	5.9	23.5	5.9	11.8	0.0	23.5	5.9	5.9	11.8	5.9	11.8	17.6
▨ 北秋田	35.7	14.3	14.3	7.1	21.4	7.1	35.7	7.1	0.0	14.3	0.0	14.3	7.1
■ 中央	30.8	28.2	26.5	10.3	24.8	6.8	17.9	1.7	8.5	28.2	6.8	14.5	2.6
▨ 大仙仙北	31.3	37.5	34.4	25.0	0.0	12.5	37.5	3.1	21.9	18.8	9.4	18.8	6.3
▨ 横手	23.1	19.2	11.5	19.2	26.9	0.0	23.1	3.8	23.1	15.4	3.8	15.4	7.7
▨ 湯沢雄勝	40.0	15.0	30.0	20.0	10.0	20.0	20.0	5.0	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0
▨ 由利本荘にかほ	30.0	20.0	23.3	26.7	13.3	13.3	23.3	0.0	6.7	3.3	6.7	16.7	3.3
— 秋田県	28.6	25.4	25.1	12.4	15.9	7.7	21.2	2.7	9.1	16.5	6.2	12.4	6.5
- - - 全国	57.6	42.3	42.4	10.6	14.4	19.7	18.2	13.8	17.7	12.7	13.2	1.8	0.0

■学習形態(障害者手帳別)

お子さんは、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



■「学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか」に関する分析

○在籍状況別

必要な情報に関しては、全ての設問で全国平均を下回っている。特に、技術に関する情報が「ない（あまりない）」の回答は高等部生が62%、卒業生が53%となっている。場や機会に関しては、高等部生、卒業生ともに「ない（あまりない）」との回答が60%近い。「情報、場、機会、プログラム」全てにおいて「ある（とてもある）」が全国平均を大きく下回り、各項目で7～12ポイント程度の差が見られる。「身に付けたい技術を学べる機会」では、「ある（とてもある）」においては卒業生が5ポイントほど高い。就業・生活支援センターや福祉事業所が実施する学びの機会、民間のパソコン教室、スポーツサークル等を利用する方が一定数いるためと思われる。それでも、全体としては18%と、数値としてはかなり低い。知りたいこと、技術、芸術文化、体を動かすことに関する情報では、在校生の方が「ある（とてもある）」の回答が3～5ポイント程度多い。学校からの配付物や本人、保護者同士のネットワークにより、情報を得ていると推察できる。

○地区別

学習の場、機会が身近に「ある（とてもある）」との回答は、各項目で全国平均（に対して10～29ポイントほど県内各地区の方が低くなっている。これは、情報の発信、学びの場やプログラムの創出を改めて考え直し、変えてゆく必要性を示しているとも言える。個別に見ると、能代山本、北秋田、大仙仙北地区では、情報、場、プログラムが「ない（あまりない）」という回答が60%近くを示している。様々な情報の「発信」や「共有」を高め、支援学校、地域、各団体の「つながり」が望まれる。また、能代山本、湯沢雄勝地区は、仲間と学び合う情報、場、プログラムを「必要としていない」という回答を選んだ人が10%以上を示している。この数字に関しては、個々の聞き取りなど詳しい分析が必要である。

○障害者手帳別

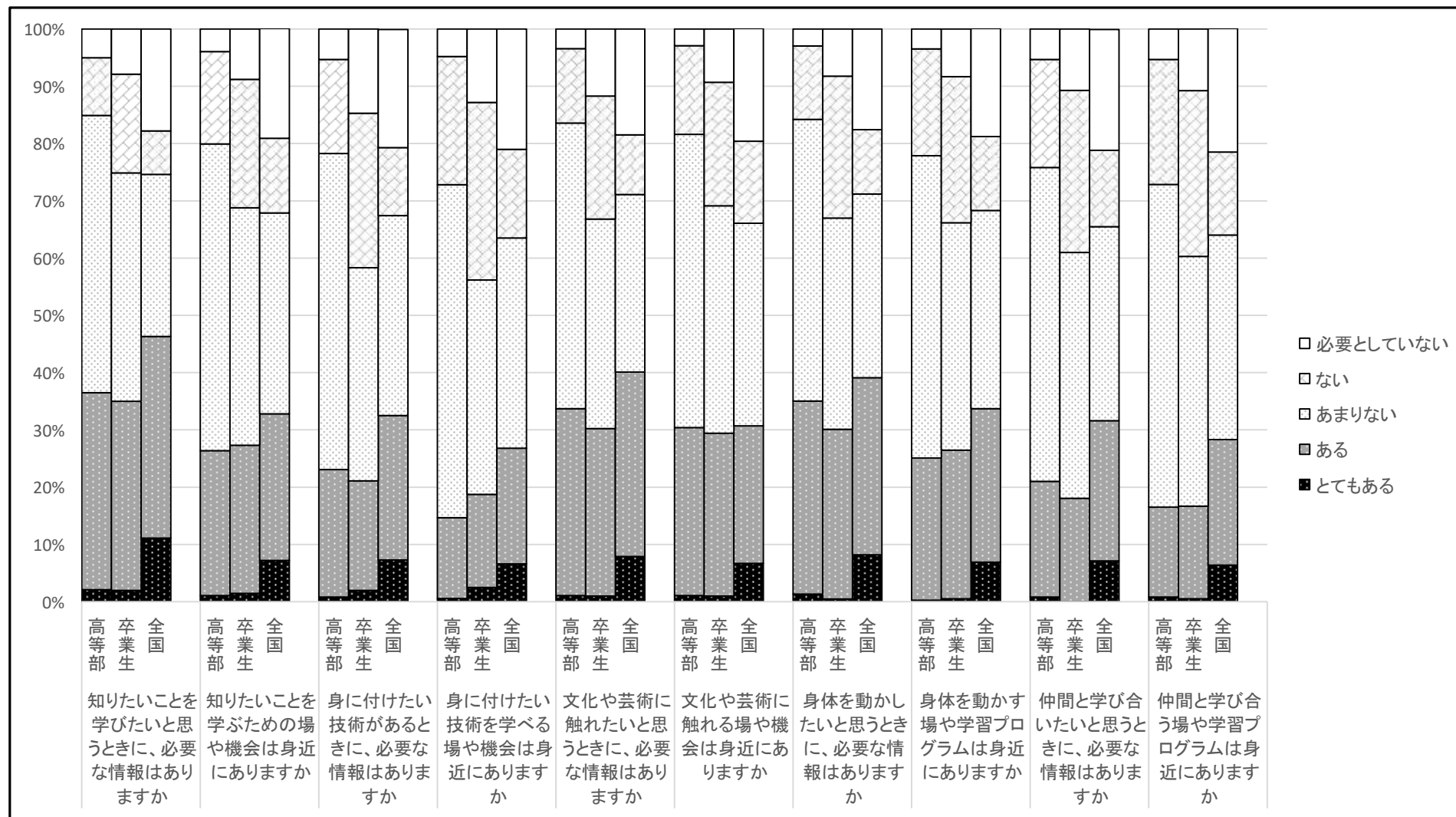
精神障害の方の特徴は、文化芸術の情報が「ある（とてもある）」という回答が50%と高い。学びたいこと、技術、身体を動かすこと全てにおいても情報がある、と答えている割合が他の障害種に比べ高い。精神障害の方は知的障害を伴わない場合が多く、メディアリテラシーが高いため、自分で情報を探せる方が多い。他の特徴としては、仲間と学び合うことに関する情報、学習プログラムが「ある（とてもある）」、「必要としていない」と答える方がどちらも15%程度となっている。このことは就業・生活支援センターへのヒアリング調査で得た、「ピアカウンセリング等の学びが効果的である一方、個別支援を望む傾向もある」という結果とも合致する。身体障害の方は全ての項目で他の障害種の方と比べ「ある（とてもある）」と回答する割合が低い。特に、身に付けたい技術を学べる場や機会が「ある（とてもある）」は9%となっている。生涯学習の経験の有無に関わらず、約半数の方が物理的バリアを感じており、機会や場を「必要としていない」と答える割合が他の障害種に比べ高い。個々のアンケート記述からは支援内容や施設設備等に関する記載が多い。そうしたことから、学ぶ場の選択肢が少ないと考える方が複数いるのではないか。ニーズの多様性から、学びの場を創出する観点も重要だが、既存の学習の場に「学びたいものはないか、どうしたら参加できるか」という視点で見直す作業も有用だと考える。

●「学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか」全体分析

全国平均と県平均のデータを比べてみると、情報、学ぶ場、学習プログラムに対して「ある（とてもある）」の回答は10ポイント程度低い数値を示している。反対に「ない（あまりない）」に関しては、県平均が全国平均より約20ポイント高い。個々の記述からは情報の発信を欲していたり、学び合う場や学習プログラムを求めたりしていることが伺える。地区別の項目でも触れたが、情報の発信、場、学習プログラムの創出には、特別支援学校、就業・生活支援センター、公民館などで行われている学びの機会、情報提供のあり方について、様々な立場の担当が集い、時間を掛けて仕組みを構築していくことが効果的であると考えられる。

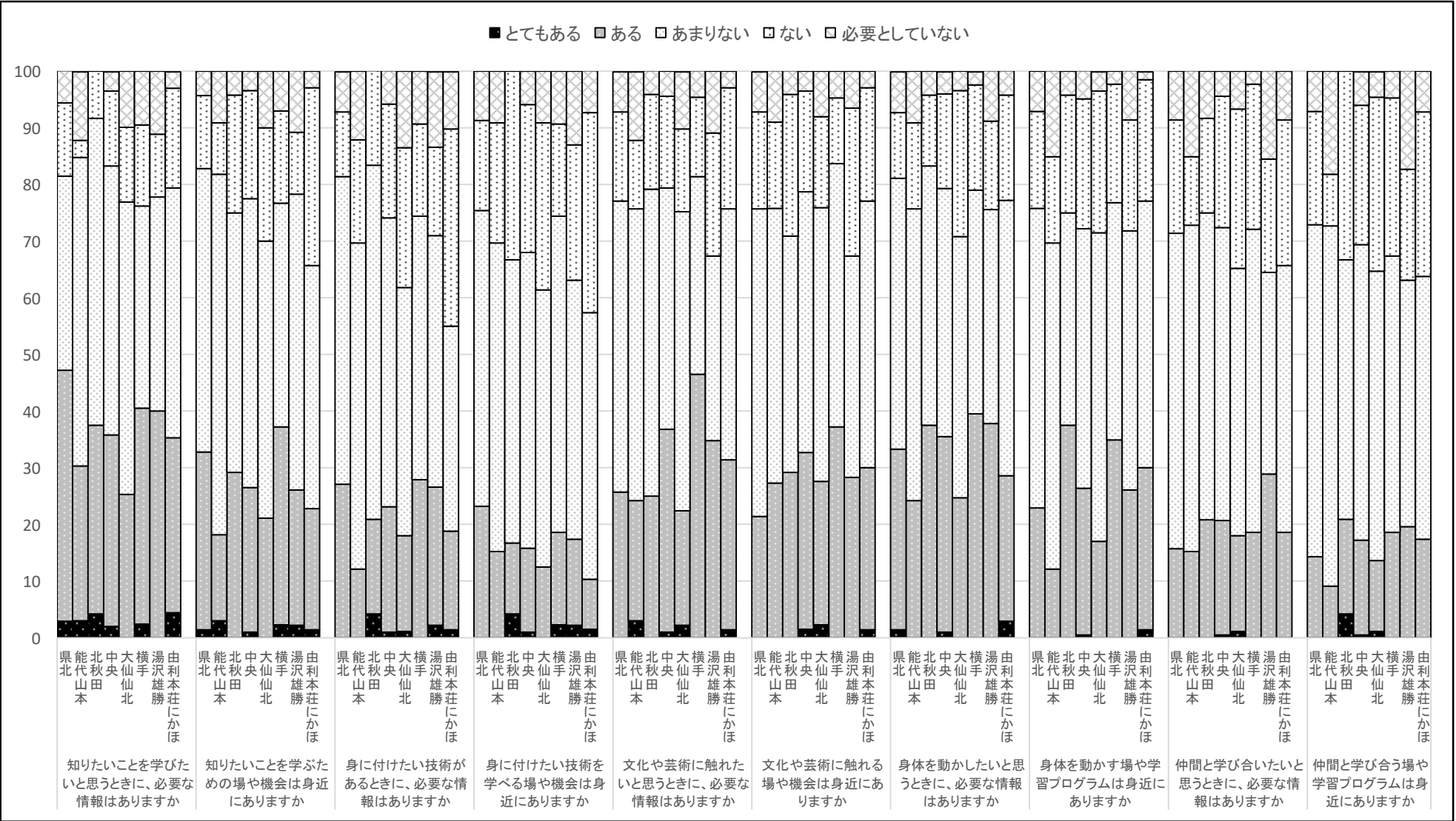
■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか(在籍状況別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか(地区別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



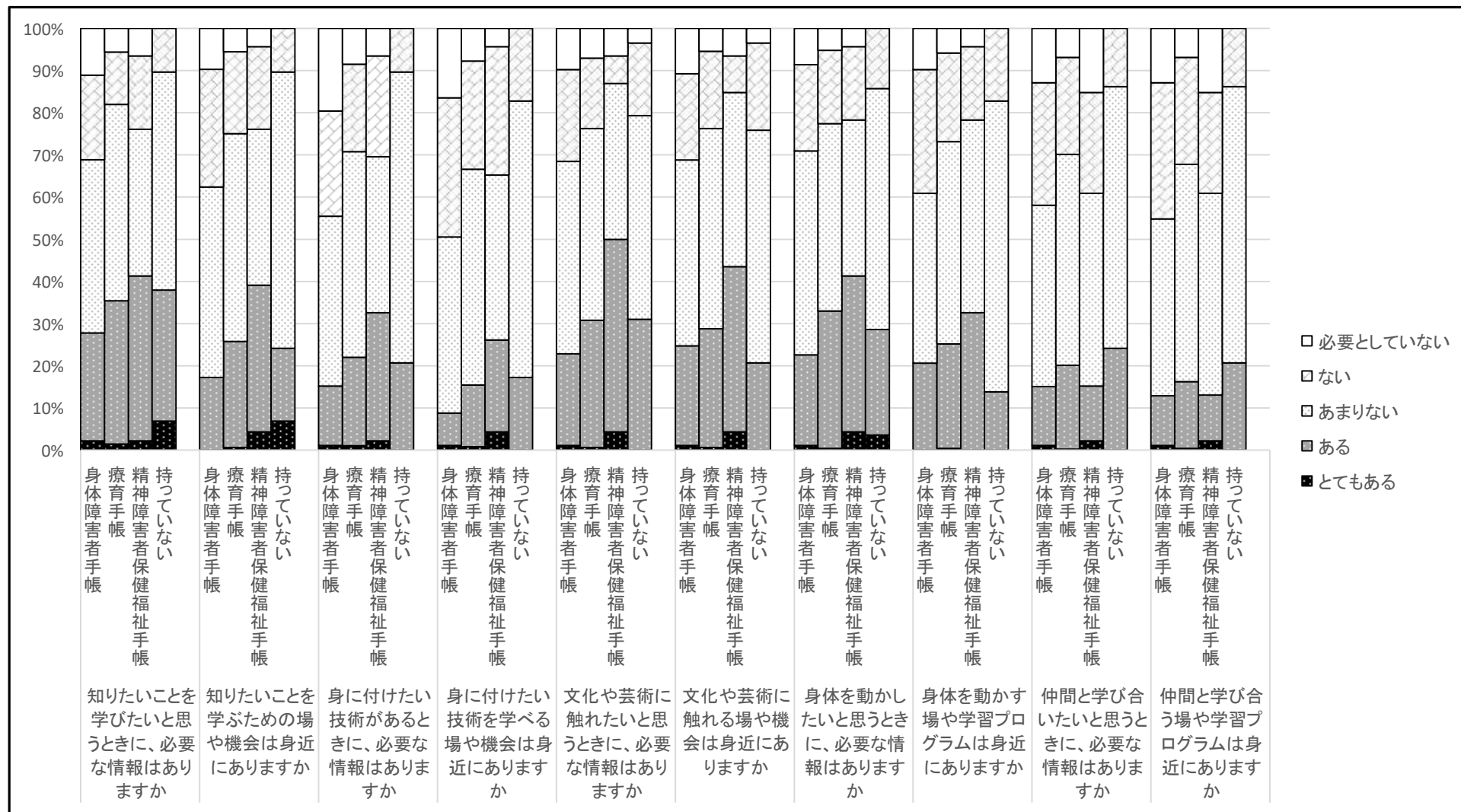
■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか(地区別)

		とてもある	ある	あまりない	ない	必要としていない
知りたいことを学びたいと思うときに、必要な情報はありますか	県北	2.9	44.3	34.3	12.9	5.7
	能代山本	3.0	27.3	54.5	3.0	12.1
	北秋田	4.2	33.3	54.2	8.3	0.0
	中央	2.0	33.8	47.5	13.2	3.4
	大仙仙北	0.0	25.3	51.6	13.2	9.9
	横手	2.4	38.1	35.7	14.3	9.5
	湯沢雄勝	0.0	40.0	37.8	11.1	11.1
	由利本荘にかほ	4.4	30.9	44.1	17.6	2.9
	全国	1.1	35.2	28.3	7.6	17.8
身に付けたい技術があるときに、必要な情報はありますか	県北	0.0	27.1	54.3	11.4	7.1
	能代山本	0.0	12.1	57.6	18.2	12.1
	北秋田	4.2	16.7	62.5	16.7	0.0
	中央	1.0	22.1	51.0	20.1	5.9
	大仙仙北	1.1	16.9	43.8	24.7	13.5
	横手	0.0	27.9	46.5	16.3	9.3
	湯沢雄勝	2.2	24.4	44.4	15.6	13.3
	由利本荘にかほ	1.4	17.4	36.2	34.8	10.1
	全国	7.3	25.2	34.9	11.9	20.6
文化や芸術に触れたいと思うときに、必要な情報はありますか	県北	0.0	25.7	51.4	15.7	7.1
	能代山本	3.0	21.2	51.5	12.1	12.1
	北秋田	0.0	25.0	54.2	16.7	4.2
	中央	1.0	35.8	42.6	16.2	4.4
	大仙仙北	2.2	20.2	52.8	14.6	10.1
	横手	0.0	46.5	34.9	14.0	4.7
	湯沢雄勝	0.0	34.8	32.6	21.7	10.9
	由利本荘にかほ	1.4	30.0	44.3	21.4	2.9
	全国	7.9	32.2	31.0	10.4	18.5
身体を動かしたいと思うときに、必要な情報はありますか	県北	1.4	31.9	47.8	11.6	7.2
	能代山本	0.0	24.2	51.5	15.2	9.1
	北秋田	0.0	37.5	45.8	12.5	4.2
	中央	1.0	34.5	43.8	16.7	3.9
	大仙仙北	0.0	24.7	46.1	25.8	3.4
	横手	0.0	39.5	39.5	18.6	2.3
	湯沢雄勝	0.0	37.8	37.8	15.6	8.9
	由利本荘にかほ	2.9	25.7	48.6	18.6	4.3
	全国	8.2	30.9	32.1	11.2	17.6
仲間と学び合いたいと思うときに、必要な情報はありますか	県北	0.0	15.7	55.7	20.0	8.6
	能代山本	0.0	15.2	57.6	12.1	15.2
	北秋田	0.0	20.8	54.2	16.7	8.3
	中央	0.5	20.2	51.7	23.2	4.4
	大仙仙北	1.1	16.9	47.2	28.1	6.7
	横手	0.0	18.6	53.5	25.6	2.3
	湯沢雄勝	0.0	28.9	35.6	20.0	15.6
	由利本荘にかほ	0.0	18.6	47.1	25.7	8.6
	全国	7.1	24.5	33.9	13.3	21.1

		とてもある	ある	あまりない	ない	必要としていない
知りたいことを学ぶための場や機会は身近にありますか	県北	1.4	31.4	50.0	12.9	4.3
	能代山本	3.0	15.2	63.6	9.1	9.1
	北秋田	0.0	29.2	45.8	20.8	4.2
	中央	1.0	25.5	51.0	19.1	3.4
	大仙仙北	0.0	21.1	48.9	20.0	10.0
	横手	2.3	34.9	39.5	16.3	7.0
	湯沢雄勝	2.2	23.9	52.2	10.9	10.9
	由利本荘にかほ	1.4	21.4	42.9	31.4	2.9
	全国	7.2	25.6	35.1	13.0	19.2
身に付けたい技術を学ぶ場や機会は身近にありますか	県北	0.0	23.2	52.2	15.9	8.7
	能代山本	0.0	15.2	54.5	21.2	9.1
	北秋田	4.2	12.5	50.0	33.3	0.0
	中央	1.0	14.8	52.2	26.1	5.9
	大仙仙北	0.0	12.5	48.9	29.5	9.1
	横手	2.3	16.3	55.8	16.3	9.3
	湯沢雄勝	2.2	15.2	45.7	23.9	13.0
	由利本荘にかほ	1.5	8.8	47.1	35.3	7.4
	全国	6.6	20.2	36.7	15.5	21.0
文化や芸術に触れる場や機会は身近にありますか	県北	0.0	21.4	54.3	17.1	7.1
	能代山本	0.0	27.3	48.5	15.2	9.1
	北秋田	0.0	29.2	41.7	25.0	4.2
	中央	1.5	31.2	46.0	17.8	3.5
	大仙仙北	2.3	25.3	48.3	16.1	8.0
	横手	0.0	37.2	46.5	11.6	4.7
	湯沢雄勝	0.0	28.3	39.1	26.1	6.5
	由利本荘にかほ	1.4	28.6	47.1	20.0	2.9
	全国	6.7	24.0	35.4	14.3	19.7
身体を動かす場や学習プログラムは身近にありますか	県北	0.0	22.9	52.9	17.1	7.1
	能代山本	0.0	12.1	57.6	15.2	15.2
	北秋田	0.0	37.5	37.5	20.8	4.2
	中央	0.5	25.9	45.8	22.9	5.0
	大仙仙北	0.0	17.0	54.5	25.0	3.4
	横手	0.0	34.9	41.9	20.9	2.3
	湯沢雄勝	0.0	26.1	45.7	19.6	8.7
	由利本荘にかほ	1.4	28.6	47.1	21.4	1.4
	全国	6.9	26.8	34.6	12.9	18.9
仲間と学び合う場や学習プログラムは身近にありますか	県北	0.0	14.3	58.6	20.0	7.1
	能代山本	0.0	9.1	63.6	9.1	18.2
	北秋田	4.2	16.7	45.8	33.3	0.0
	中央	0.5	16.7	52.2	24.6	5.9
	大仙仙北	1.1	12.5	51.1	30.7	4.5
	横手	0.0	18.6	48.8	27.9	4.7
	湯沢雄勝	0.0	19.6	43.5	19.6	17.4
	由利本荘にかほ	0.0	17.4	46.4	29.0	7.2
	全国	6.4	21.9	35.7	14.5	21.6

■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか(障害者手帳別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



■「生涯学習に関する課題」に関する分析

○在籍状況別

大きな特徴として、学ぶ意欲、充てる時間、出かける気持ち、周囲の理解は全国平均を上回っている。また、費用、物理的なバリアへの負担感は全国を下回る。しかし、情報、機会、仲間に関しては「ない（あまりない）」が60%を超えている。つまり「意欲があり、負担も感じないが、情報、機会、仲間が不足している」ということが課題となっている。

特別支援学校と就業・生活支援センターを対象にしたヒアリング調査からは、能代公民館主催の行事に特別支援学校の生徒、就業・生活支援センターの登録者が一緒に参加できた例、大曲支援学校せんぼく校が仙北市教育委員会生涯学習課と連携し、わらび座劇団員との体験学習を実施した事例があった。しかし複数の所から予算、人的な支援の不足、情報が全ての方に届かないなどの課題について聞く事ができた。

○地区別

生涯学習の機会、情報に関しては、全域で「ある（とてもある）」が30%以下となっており、全国平均を下回っている。県北地区、由利本荘にかほ地区では、他地区と比べて情報、機会、そして仲間不足を感じている傾向がある。

外出に困難を抱える地区（能代山本55%、由利本荘にかほ38%）は、手助けしてくれる支援も不足（能代山本20%、由利本荘にかほ39%）を感じる傾向がある。

どの地区でも情報、機会、仲間が不足しているが、相談する人、支援、理解についてはある程度充実している。これは支援が個別化している事を指していると思われ、同時に仲間とともに学ぶ機会へのニーズが伺える。

○障害者手帳別

全ての障害種で情報、機会、仲間の不足を感じている割合が高い。その中でも特に、身体障害の方が物理的バリアと外出自体の困難さに関して高い数値を示した。具体的には施設設備面、交通手段に関する記述が多数見られる（トイレ、段差、狭さ、駐車場、ベッド、公共交通期間、アクセス）。

自由記述には、「公共の場利用において理解が周りから得られない」「付き添いが必要で、他者との意思疎通が難しい。親は子どもとともに生きられない。安心できる環境を少しでも早く、多く、整えてほしい」といった意見もある。当事者の声を生涯学習の担当者、福祉担当者などが直接伝え合い、協働することが、こうしたバリアの軽減につながると思われる。

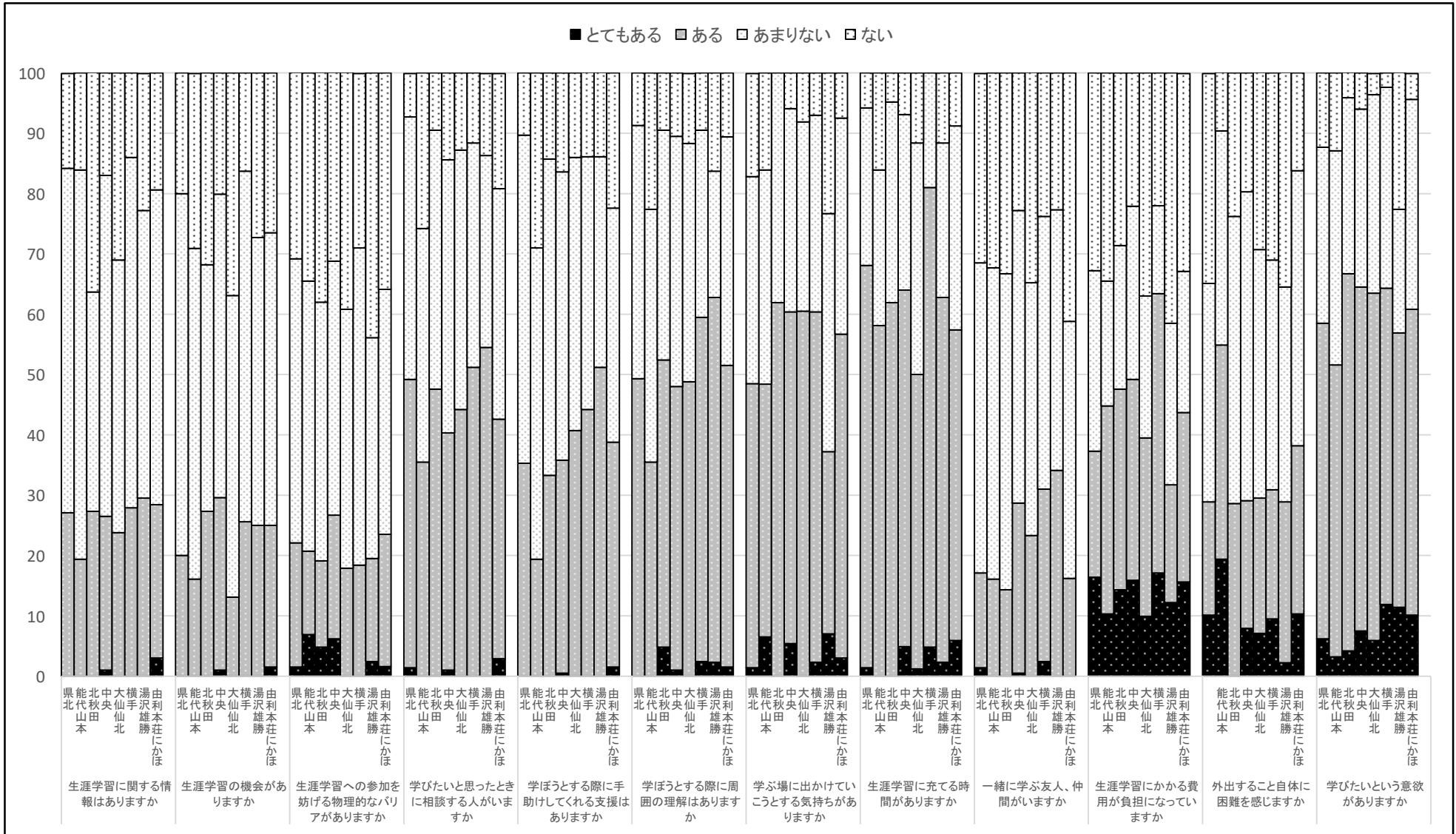
●「生涯学習に関する課題」全体分析

在籍状況、地区、障害者手帳ともに最も課題となっている部分は「情報、機会、仲間」の3点であった。このうち情報については、施設設備面の情報、学習機会など、内容について具体的に記載されているものが多い。しかし、どこに、どうやって、といった記載はない。これは、生涯学習に関する情報を得る方法自体が少ないことを表しているのではないか。

物理的バリア、心理的なバリアについては、生涯学習の観点だけでなく、日常生活で生じているものも多い。学習の機会が充実するためには、複数のサポートの組合せが必要なケースも予想される。誰が、何のサポートを行うことができるか、情報を集約させる仕組みや担当者同士話し合う機会を創出することが、バリアの軽減に効果的だと思われる。

生涯学習に関する課題(地区別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



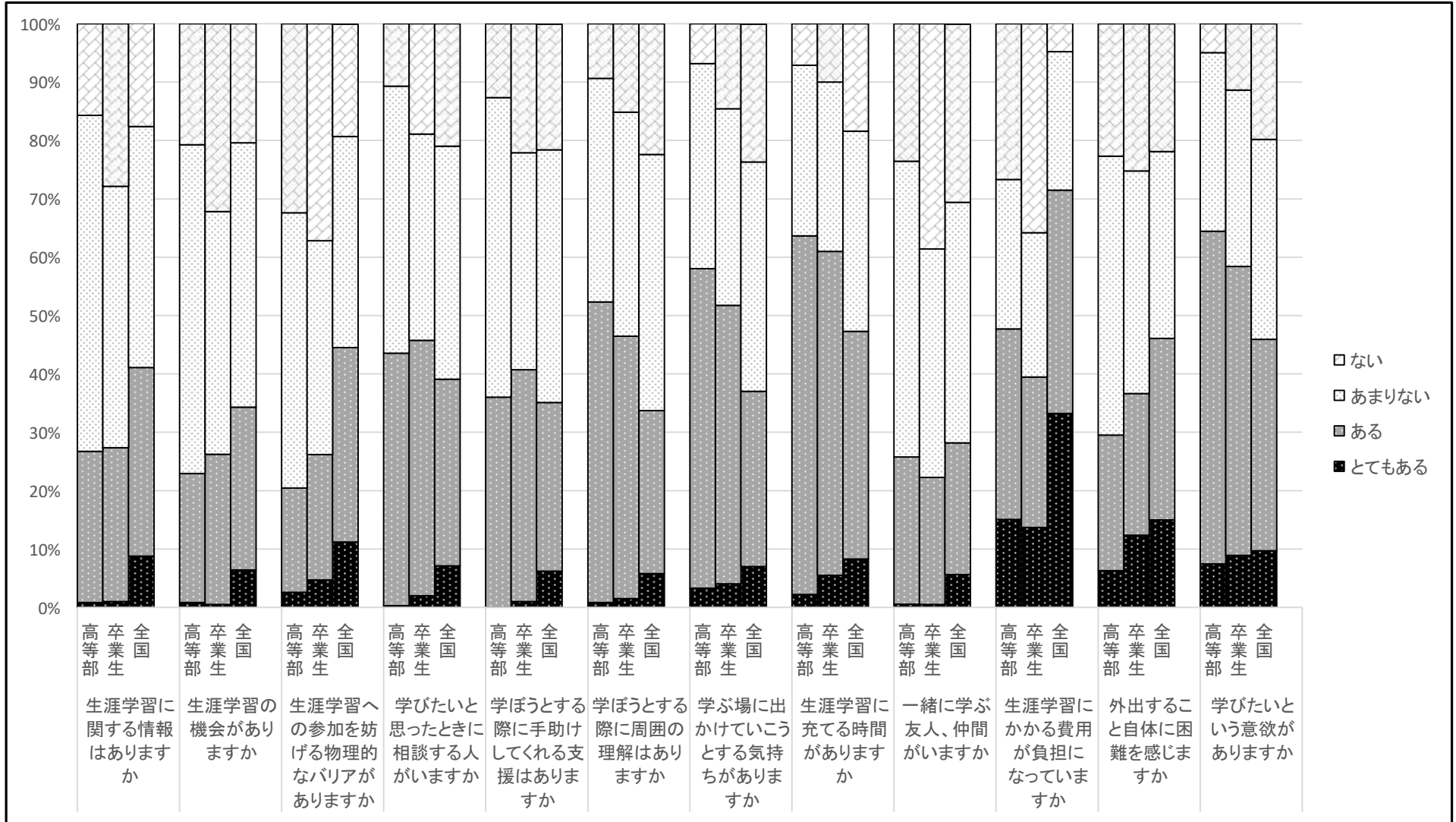
■生涯学習に関する課題(地区別)

		とてもある	ある	あまりない	ない
生涯学習に関する情報がありますか	県北	0.0	27.1	57.1	15.7
	能代山本	0.0	19.4	64.5	16.1
	北秋田	0.0	27.3	36.4	36.4
	中央	1.0	25.5	56.5	17.0
	大仙仙北	0.0	23.8	45.2	31.0
	横手	0.0	27.9	58.1	14.0
	湯沢雄勝	0.0	29.5	47.7	22.7
	由利本荘にかほ	3.0	25.4	52.2	19.4
	全国	8.8	32.3	41.3	17.7
生涯学習への参加を妨げる物理的なバリアがありますか	県北	1.5	20.6	47.1	30.9
	能代山本	6.9	13.8	44.8	34.5
	北秋田	4.8	14.3	42.9	38.1
	中央	6.2	20.5	42.1	31.3
	大仙仙北	0.0	17.9	42.9	39.3
	横手	0.0	18.4	52.6	28.9
	湯沢雄勝	2.4	17.1	36.6	43.9
	由利本荘にかほ	1.6	21.9	40.6	35.9
	全国	11.2	33.3	36.2	19.2
学ぼうとする際に手助けしてくれる支援はありますか	県北	0.0	35.3	54.4	10.3
	能代山本	0.0	19.4	51.6	29.0
	北秋田	0.0	33.3	52.4	14.3
	中央	0.5	35.3	47.8	16.4
	大仙仙北	0.0	40.7	45.3	14.0
	横手	0.0	44.2	41.9	14.0
	湯沢雄勝	0.0	51.2	34.9	14.0
	由利本荘にかほ	1.5	37.3	38.8	22.4
	全国	6.2	28.9	43.3	21.5
学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがありますか	県北	1.4	47.1	34.3	17.1
	能代山本	6.5	41.9	35.5	16.1
	北秋田	0.0	61.9	38.1	0.0
	中央	5.4	55.0	33.7	5.9
	大仙仙北	0.0	60.5	31.4	8.1
	横手	2.3	58.1	32.6	7.0
	湯沢雄勝	7.0	30.2	39.5	23.3
	由利本荘にかほ	3.0	53.7	35.8	7.5
	全国	7.0	30.0	39.3	23.6
一緒に学ぶ友人、仲間がいますか	県北	1.4	15.7	51.4	31.4
	能代山本	0.0	16.1	51.6	32.3
	北秋田	0.0	14.3	52.4	33.3
	中央	0.5	28.2	48.5	22.8
	大仙仙北	0.0	23.3	41.9	34.9
	横手	2.4	28.6	45.2	23.8
	湯沢雄勝	0.0	34.1	43.2	22.7
	由利本荘にかほ	0.0	16.2	42.6	41.2
	全国	5.6	22.6	41.2	30.5
外出すること自体に困難を感じますか	県北	10.1	18.8	36.2	34.8
	能代山本	19.4	35.5	35.5	9.7
	北秋田	0.0	28.6	47.6	23.8
	中央	7.9	21.2	51.2	19.7
	大仙仙北	7.1	22.4	41.2	29.4
	横手	9.5	21.4	38.1	31.0
	湯沢雄勝	2.2	26.7	35.6	35.6
	由利本荘にかほ	10.3	27.9	45.6	16.2
	全国	15.0	31.1	32.0	21.9

		とてもある	ある	あまりない	ない
生涯学習の機会がありますか	県北	0.0	20.0	60.0	20.0
	能代山本	0.0	16.1	54.8	29.0
	北秋田	0.0	27.3	40.9	31.8
	中央	1.0	28.6	50.3	20.1
	大仙仙北	0.0	13.1	50.0	36.9
	横手	0.0	25.6	58.1	16.3
	湯沢雄勝	0.0	25.0	47.7	27.3
	由利本荘にかほ	1.5	23.5	48.5	26.5
	全国	6.4	27.9	45.3	20.4
学びたいと思ったときに相談する人がいますか	県北	1.4	47.8	43.5	7.2
	能代山本	0.0	35.5	38.7	25.8
	北秋田	0.0	47.6	42.9	9.5
	中央	1.0	39.3	45.3	14.4
	大仙仙北	0.0	44.2	43.0	12.8
	横手	0.0	51.2	37.2	11.6
	湯沢雄勝	0.0	54.5	31.8	13.6
	由利本荘にかほ	2.9	39.7	38.2	19.1
	全国	7.1	32.0	39.9	21.0
学ぼうとする際に周囲の理解はありますか	県北	0.0	49.3	42.0	8.7
	能代山本	0.0	35.5	41.9	22.6
	北秋田	4.8	47.6	38.1	9.5
	中央	1.0	47.0	41.5	10.5
	大仙仙北	0.0	48.8	39.5	11.6
	横手	2.4	57.1	31.0	9.5
	湯沢雄勝	2.3	60.5	20.9	16.3
	由利本荘にかほ	1.5	50.0	37.9	10.6
	全国	5.8	27.8	43.9	22.4
生涯学習に充てる時間がありますか	県北	1.4	66.7	26.1	5.8
	能代山本	0.0	58.1	25.8	16.1
	北秋田	0.0	61.9	33.3	4.8
	中央	4.9	59.1	29.1	6.9
	大仙仙北	1.2	48.8	38.4	11.6
	横手	4.8	76.2	19.0	0.0
	湯沢雄勝	2.3	60.5	25.6	11.6
	由利本荘にかほ	5.9	51.5	33.8	8.8
	全国	8.3	39.0	34.3	18.4
生涯学習にかかる費用が負担になっていますか	県北	16.4	20.9	29.9	32.8
	能代山本	10.3	34.5	20.7	34.5
	北秋田	14.3	33.3	23.8	28.6
	中央	15.9	33.3	28.7	22.1
	大仙仙北	9.9	29.6	23.5	37.0
	横手	17.1	46.3	14.6	22.0
	湯沢雄勝	12.2	19.5	26.8	41.5
	由利本荘にかほ	15.6	28.1	23.4	32.8
	全国	33.2	38.3	23.7	4.9
学びたいという意欲がありますか	県北	6.2	52.3	29.2	12.3
	能代山本	3.2	48.4	35.5	12.9
	北秋田	4.2	62.5	29.2	4.2
	中央	7.5	57.0	29.5	6.0
	大仙仙北	5.9	57.6	32.9	3.5
	横手	11.9	52.4	33.3	2.4
	湯沢雄勝	11.4	45.5	20.5	22.7
	由利本荘にかほ	10.1	50.7	34.8	4.3
	全国	9.7	36.2	34.3	19.8

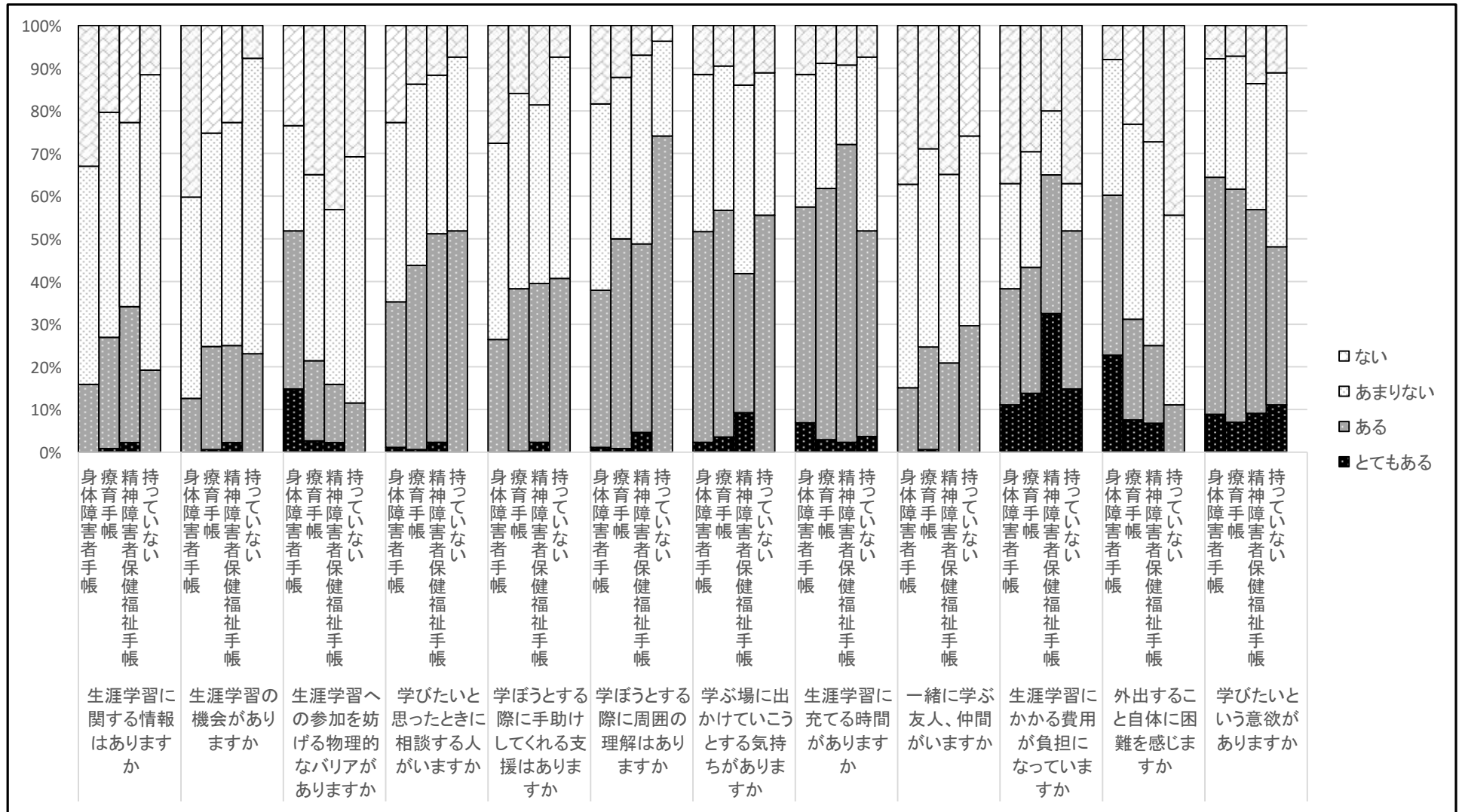
生涯学習に関する課題(在籍状況別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



生涯学習に関する課題(障害者手帳別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



■「障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識」に関する分析

○在籍状況別

生涯学習の機会が必要だと認識をしている人の割合は全体の94%となっており、全国平均の81.8%を大きく上回っている。生涯学習の必要性は多くの人々が認識しているものの、生涯学習の継続の有無については、「特になし」が半数(50.1%)に上り、全国平均(38%)よりも高く、必要性の認識と行動にずれが起きている。このことは、情報の量、学習の場、機会の少なさによるものではないか。ただし、「そう思う」と答えた人が生涯学習を行っている割合は、高等部生52.6%、卒業生59.7%と割合がとても高くなっている。「まあそう思う」と答えた人と比較(高等部生37.7% 卒業生47.8%)しても、高い割合である。このことから、必要性を強く感じていると生涯学習を行うことに繋がっていると言える。

高等部生と卒業生を比較すると、必要性を認識している人の割合はほぼ同じだが、「そう思う」の割合は卒業生が少し高くなっている。ニーズに答えて積極的に情報発信したり、支援学校や生涯学習課・福祉課・障害者生活センター・サークル運営母体と連携を密にして事業を行ったりすることが、今後の課題になっていくと思われる。

○地区別

生涯学習の機会が必要だと認識している割合は、どの地区も高くなっている。特に北秋田市では100%の人々が、生涯学習の機会が必要だと認識している。この地区では問6で「そう思う」と答えた人の70.5%が生涯学習を続けて行っている。これは、秋田県全体(46.4%)と比較するとかなりの高率である。また、この地区では卒業生が生涯学習に取り組んでいる割合が高い(高等部生60%、卒業生85.7%)。個々のアンケートを見ると卒業生は、福祉事業所で学んでいる人の割合が多いことが特徴であった。障害者福祉サービスに関連する、生活支援センターや支援学校、生涯学習課、健康福祉課の連携による事業展開が卒業生の生涯学習へ取り組む機会の契機になっていると考えられる。

記述には、どの地区からも「生涯学習の情報ほとんど無い」「障がい者が集える場所などがあれば嬉しいです」という声が上がっている。

○障害者手帳別

生涯学習の機会が必要だと認識している人は、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳、持っていない人の全てで90%を越えている。その内、生涯学習を続けている人の割合は54.5%である。生涯学習を続けている人の割合の結果は、身体障害者手帳52%、療育手帳54.5%、精神障害者手帳55.5%、持っていない62.5%となっている。障害の程度が軽い人は、健常者と交じっての学習を行いやすいと考えられる。身体障害者の27%が重複して手帳を持っており、生涯学習をする機会や場にある程度の制限がかかると考えられる。それでも生涯学習を続けている人の割合は、重複障害者53名中20名、37.7%となっている。それは、保護者を中心とした支援する人々の存在が大きいと思われる。

「共に生きる社会を目指すのであれば、障がいのない方の差別意識を少しでもなくす取り組みもしていただければ嬉しいです。」という記述にもみえるように、健常者が障害者と触れ合ったり、理解し合ったりする機会をもつことが必要である。

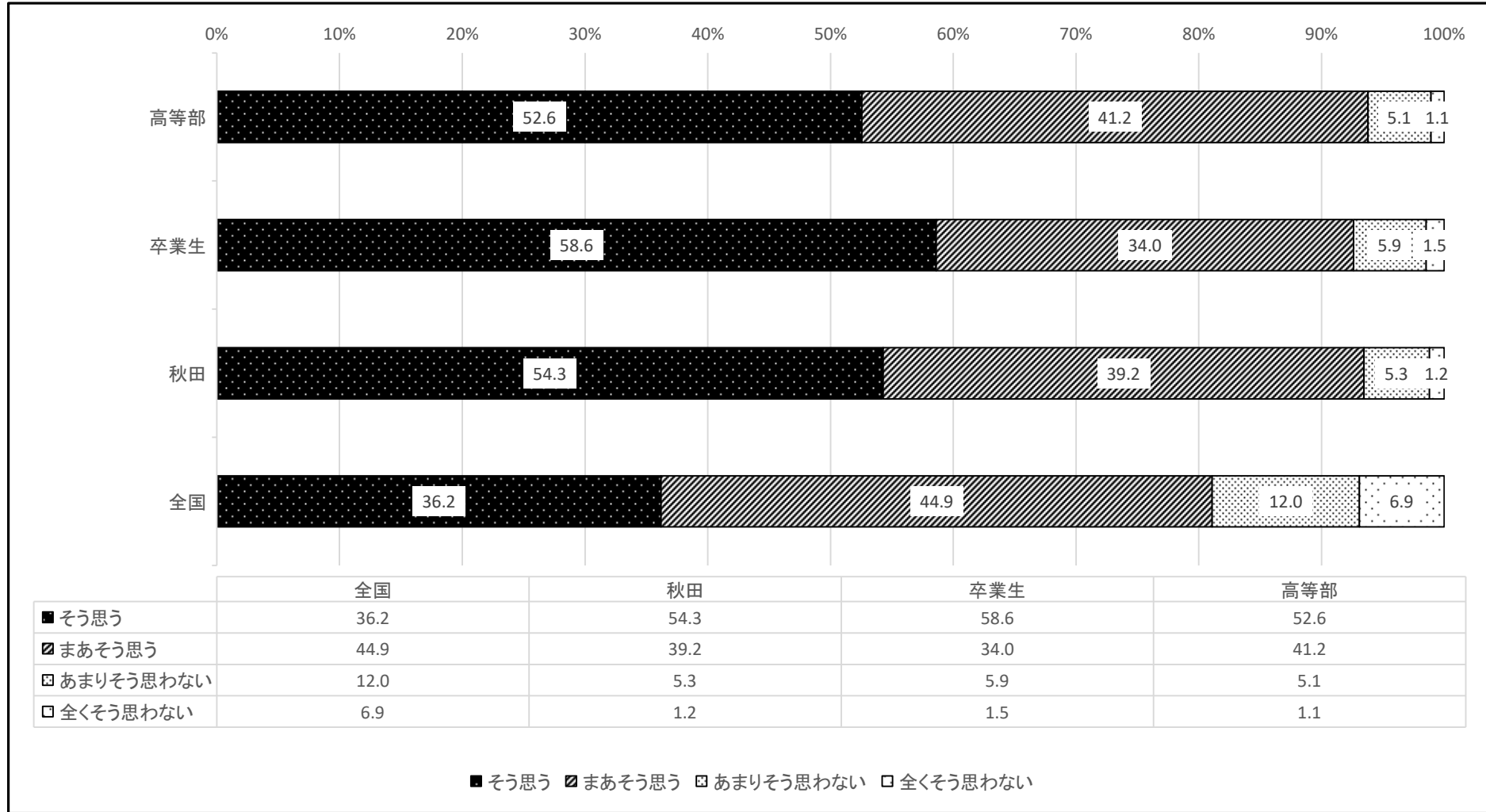
●「障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識」全体分析

生涯学習の必要性への意識は全国を大きく上回り、90%を超えている。在籍別、地域別、手帳別全てで均等に高い割合を示している。その中で障害種別では、身体障害の方が最も必要性を感じていた。例えば聴覚障害、視覚障害、身体の一部に障害のある方などは、資格取得を希望する場合がある。

一方、障害が重く、医療的ケアを必要とする方などは、周囲の理解や、人との関わりを求めていることが予想される。こうしたことから、生涯学習の場において、障害者が個々に応じた支援を受けられる体制づくりが心配されがちだが、全体の50%近い方は、生涯学習を継続している。まずはその方たちが活用している支援や学習内容を生涯学習の実施者、学習者が共有し、お互いの理解を深めることで、生涯学習の機会充実につながると思われる。

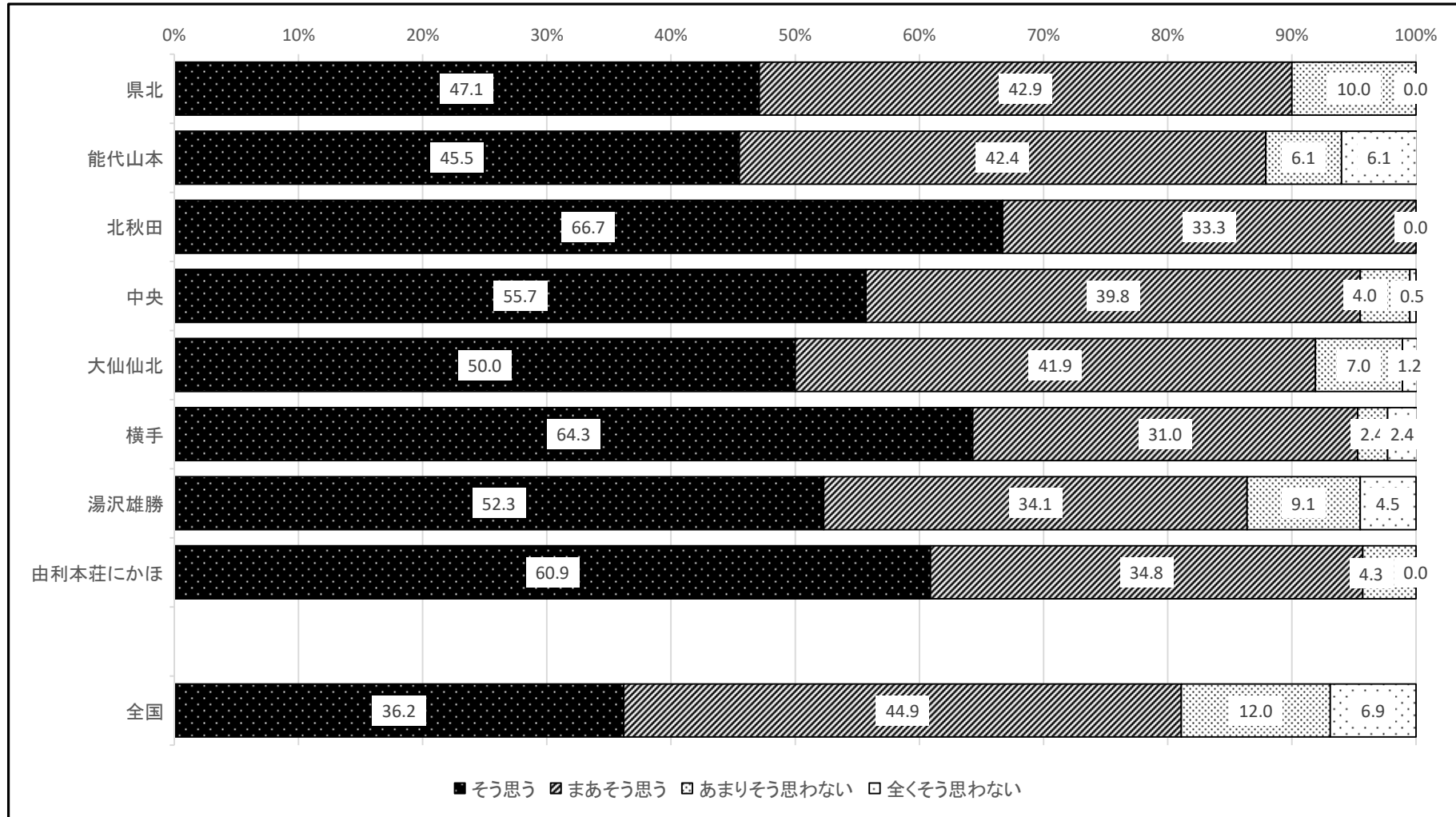
■ 障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識(在籍状況別)

「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)の機会が必要だと思いますか。



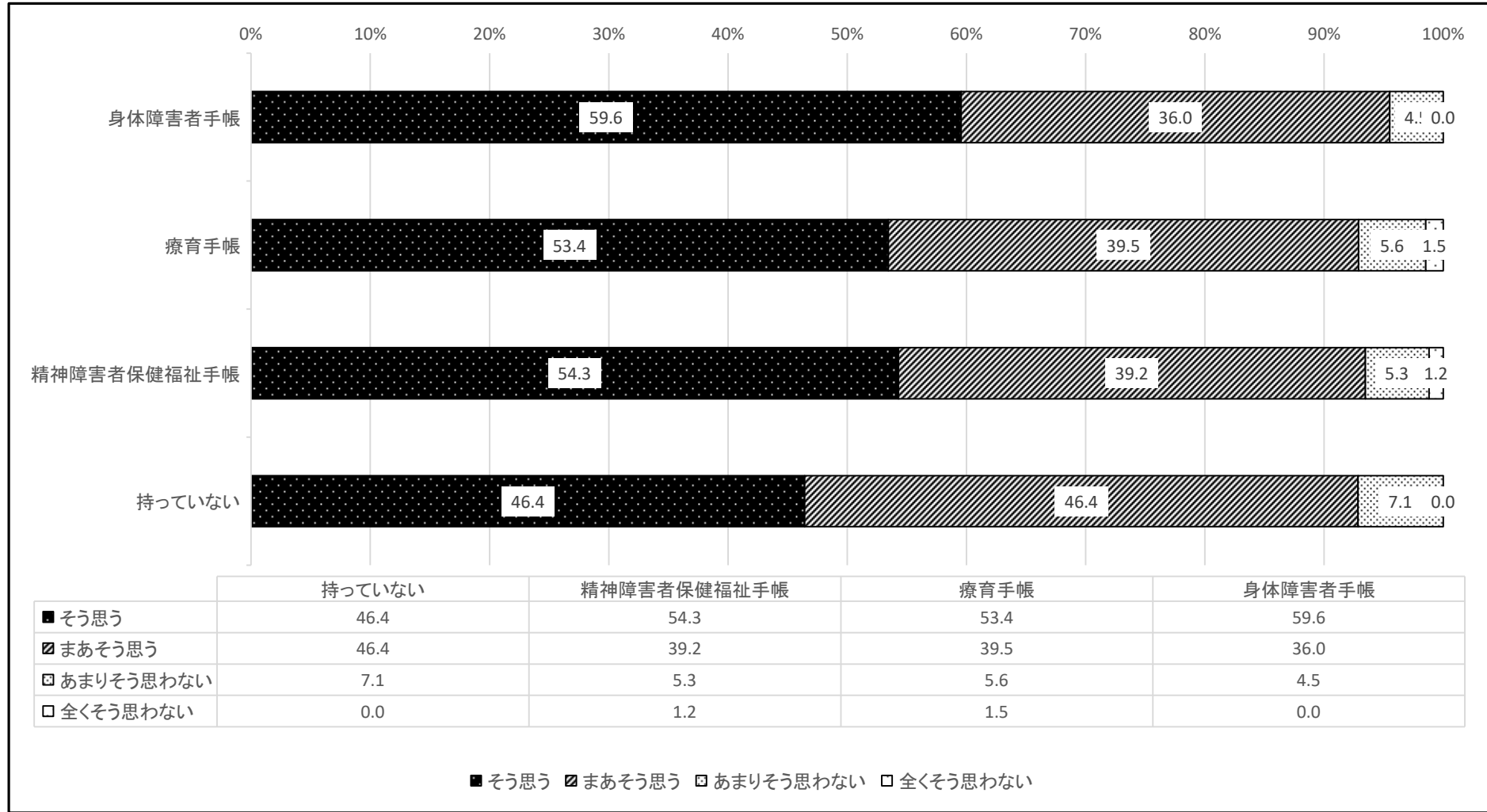
■障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識(地区別)

「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)の機会が必要だと思いますか。



■ 障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識(障害者手帳別)

「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)の機会が必要だと思いますか。



● **問 1 ～ 3 考察**
「生涯学習の経験」「生涯学習を実施した理由」「学習形態」

秋田県の場合、全国と比べて生涯学習に取り組んでいる障害者の割合がそもそも低い。生涯学習の内容は「余暇・レクリエーション活動」「健康の維持・増進、スポーツ活動」が多く、学習形態も「テレビやラジオ」「インターネット」など自宅での学習活動が多い。この傾向は、特に身体障害者手帳所有者に顕著である。このように、それほど場所にこだわらずに取り組むことが可能で、自己の成長に資する活動に主眼が置かれる一方で、社会生活や職業生活に関わる学習への意欲や、公民館・生涯学習センターなど公的な機関における講座・教室への参加率は低い。しかし、支援団体の活動によって、生活課題解決を生涯学習に求める割合が高い地区もある。

今後は、行動援護や移動支援の充実を図ることで「学びの場に至る手段」を安定させた上で、生活に直面した課題や地域課題への取組を促していく、社会の仕組み・枠組みを整備する必要があると考えられる。

● **問 4 ～ 6 考察**
「学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか」「生涯学習に関する課題」
「障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識」

アンケートの課題として高い数値を示したのは、①生涯学習の機会、②共に学ぶ仲間、③情報の3項目であった。県内の就業・生活支援センター、特別支援学校に実施したヒアリング調査では、各所で調理、話し合う場づくり、成人を祝う会等の学びの機会が提供されていた。その周知は、大半が登録されている方へ郵送で行われている。地域全体を見ると現状では「生涯学習の機会や情報が限られている」と言える。さらに記述からは「生涯学習の機会」「施設設備の充実」「講座の障害への対応」への情報を求める意見が多数あげられた。

障害者には、自分で情報を探せない方も多い。全ての方に情報が届く仕組みが、今回課題となった「生涯学習の機会」、「共に学ぶ仲間」にも繋がり、包摂的な生涯学習の展開に結びつくと考えられる。